

# TSUKU COMM

〔ツクコム〕

TSUKUBA COMMUNICATIONS 2015 ▶▶

AUTUMN

VOL. 29

## 学びと経営の 十字路口

対談  
01

小林喜光氏 × 永田恭介

経済同友会代表幹事・  
三菱ケミカルホールディングス取締役会長

筑波大学長



- 07 対談02 / 巨匠たちの語り場  
洋画家 藪野健氏 × 玉川信一 副学長
- 12 世界遺産 / file#5 古典主義の都ワイマール  
/ バウハウスとその関連遺産群
- 14 聴 / 熊田博明 准教授
- 16 学内組織紹介 / 人文社会国際比較研究機構
- 18 名物先生登場 / 塚田勝郎 教諭 (附属高等学校)
- 20 躍動する! 筑波大生

- 22 Homeland / ロシア連邦
- 24 TOPICS
- 30 校友会
- 31 茗溪会・紫峰会
- 32 リレーエッセイ
- 34 新聞掲載・テレビ放送一覧
- 35 イベントカレンダー

筑波大学



# 学び と 十字路

## 経営の



「産学官」。力を合わせてロマンを追う時。

前例や慣行にとらわれない大胆な取り組みで、  
三菱ケミカルホールディングスを世界有数の化学企業に育て上げた小林喜光氏。  
この春からは、経済同友会代表幹事としてもご活躍されています。  
今回は、大学改革の先陣を切る本学の永田恭介学長と産業界のトップに立つ小林氏が、  
日本の未来を見据え、人材育成や産学官の協働などについて熱く語り合いました。



**小林 喜光 氏** 経済同友会代表幹事  
三菱ケミカルホールディングス取締役会長

1946年 山梨県 生まれ  
1971年 東京大学大学院理学系研究科相関理化学修士課程修了  
1972年 ヘブライ大学(イスラエル)物理化学科留学  
1973年 ビサ大学化学科  
1974年 三菱化成工業(現・三菱化学)入社  
1975年 東京大学理学博士号取得  
2007年 三菱ケミカルホールディングス代表取締役社長  
兼三菱化学代表取締役社長  
2012年 兼三菱化学代表取締役会長  
2015年 三菱ケミカルホールディングス取締役会長  
経済同友会代表幹事



**永田 恭介 学長** 筑波大学学長

1953年 愛知県生まれ  
1981年 東京大学薬学研究所博士課程修了  
アルバート・アインシュタイン医科大学博士研究員  
1984年 スローンケタリング記念癌センターリサーチフェロー  
1985年 国立遺伝子研究所分子遺伝子研究系・助手  
1999年 東京工業大学生命理工学研究所・助教授  
2001年 筑波大学基礎医学系・教授  
2012年 筑波大学学長特別補佐  
2013年 筑波大学学長

## 「地球の危機を救う」という ロマンを持つ

**永田**：小林会長には、筑波大学経営協議会委員として日頃から本学を支えていただき、ありがとうございます。理学博士号を取得されている小林会長ですが、今は産業界のトップとして頑張っておられます。さらに、イスラエルのヘブライ大学に留学されるなど、さまざまなチャレンジもされてきました。

**小林**：研究をやっているうちに、いつの間にか事業をやり、最後にはマネジメントをやることになりましたからね(笑)。

**永田**：筑波大学の場合、理工系の学生はだいたい大学院に行きますが、ドクターを取って産業界に行きたいという学生がなかなか増えません。今の学生は全体的に「安住」を求めている感じがします。でも、僕は、いずれの方面に行くとしても安住型じゃないようにしてやりたい。小林会長は研究職に就かれて、そのプロフェッショナルでした。でも、そこに安住しなかったわけですね。

**小林**：「安住」を追い求めても安住の地なんてないのです。世の中は常に変わっているから、私たちもこれに合わせて変わらなければ生きていけない。「安住

を求める」ということは、この原則がわかっていないということだと思います。

**永田**：学問も商売も安住なんてありえませんね。老舗のことを調べてみても、みんな努力し続けています。

**小林**：若い人たちには、時代の変化に対する感覚を研ぎ澄まして、変化に敏感に対応するという自分自身を持っていただきたい。そして、「自分は何か、何のために存在しているのか」、「自分の人生を意味のあるものにするために何をすればいいか」を常に問い詰めてほしい。人間は、この根源的なところでハングリーにならないといけないと思います。自分の存在そのものにさえ疑問を持ち、時代に対する怒りを持ちながら展開していくことで、変革へのエネルギーが生まれてきます。

**永田**：大学に残って学問をやっている、「もうこの環境では変わらない。なんとかしたいな」という時があります。そういう時が実はチャンスです。たぶんその時に小林会長はヘブライ大学に行かれたのでしょし、僕はニューヨークに行きました。「自分の力しか頼れないところに行こう。これから何年間かはとにかく精一杯やってみて、もしダメだったら、違う道を考えればいい。何をやって生きていけるだろう」と考えていました。

**小林**：そこまでフレキシブルに、今ある自分自身への執着を捨てられるかどうかですね。現状に甘んじて「そっちの方が軽やかで、なんとなく幸せで、なんとなく心地よいから」と今の自分を守るという現代の風潮、これを壊さなきゃ駄目です。

**永田**：そういう風潮は、自分の能力以外のところで充足しているからなのかもしれません。「自分がこうしたい、あぁなりたい」とか「こういうことをやってみよう」という飢餓感はあるのでしょうか、それを代償するようなものが今の日本にはたくさんあります。「心地よさ」や「幸福感」を排除することはできないので、現代の若い人に、強い飢餓感をどうやって持たせるかが問題です。

**小林**：今、世界は大変な危機的状況にあります。日本の人口は減少していますが、世界では人口が90億、100億と増え続け、このままでは、食糧もきれいな水も足りなくなり、エネルギーも枯渇するでしょう。CO2や気候変動などの問題もあります。こういう地球的課題を解決しなければ、人類は存続できません。私たち日本人もそういう危機感を持つ必要があります。若い人たちが「自分が地球を救う」と信じて行動するくらい大きなロマンを持てるような教育をしてほしいと思います。





## 真の産学官協働とICT教育

**永田:**若い人たちが、地球的課題に危機感を持って取り組むことはとても重要なことです。同時に、そのような大きな問題には、国も企業も資金を出して、産学官から知恵を集めて取り組むべきですね。

**小林:**僕らの時代は、大学では学生が自治を声高に主張していました。だから、例えば警官がキャンパスに立ち入ることにもものすごくヒステリックに反応することもあった。

**永田:**東大紛争ですね。

**小林:**僕自身は関わりませんが、「学問は社会から独立しているべきだ」という風潮が強かった。しかし、今や時代は変わりました。大学は社会や企業にオープンでなければいけないと思います。大学の自治だけでなく産学官の協働も重視し、「社会とコラボレーションすることが大学の存在意義」というように、がらりと変わりました。

**永田:**ただ、どうも日本人は、プロジェ

クトと一緒にやるとなっても、ビッグボスを決め、その下にそれぞれの組織の中にチームを作って満足してしまう。なぜ、「本当に共に働く」という協働ができないのでしょうか。これを乗り越えないと、人も育たないし、今言われたような、ロマンを持ってチャレンジするようなものも解決できません。

**小林:**アメリカやドイツの産業界は、かなり選択と集中が進んできています。一つの産業にはプレイヤーが数社しかありません。

**永田:**そうですね。

**小林:**ところが、日本は小さい会社が林立していて、欧米に比べて資本効率が悪く、集約すればもっと効率良くやれるのになかなか一緒になれない。農耕民族的に「俺の田んぼはちょっと狭いけれど、うまい米を作っているぜ」という意識が強いのでしょう。小さい田んぼを大切にすぎで、トラクター農業を大規模にやるとか、大きな目的に向かって皆の力を集約するということができない。こ

の意識を変えていかないとはいけません。

**永田:**鳥を作って「オリジナリティ」と言って、それから「みんなと同じようなもの」と言いたいのでしょうか。

**小林:**IOT<sup>\*1</sup>だ、ビッグデータだ、ロボティクスだ、という時代が来て、アメリカは「インダストリアル・インターネット・コンソーシアム」<sup>\*2</sup>、ドイツは「インダストリー4.0」<sup>\*3</sup>という国家的プロジェクトを結成し、国を挙げて産業革新が進んでいます。そんな中で、日本はかなり出遅れてしまいました。早く追いつかないと、21世紀半ばから後半以降には、もう先進国ではいられないかもしれません。

**永田:**日本は本当に遅れています。分かりやすい例で言うと、「もしサイバーテロがあったら日本は勝てない」ということ。今のままだと日本は敗戦国になってしまう。10年以上前に、アメリカでは、政府に入るハッカーのコンペがありました。日本はといえば、そのコンペの良し悪しを議論しているだけ。こんな調子だから、





既存のものを乗り越えなければならない超一流のハッカーも育てられません。

**小林:** 今、日本の教育で最も必要なのは、情報通信技術 (ICT) の分野の人間を、どう教育して増やしていくかということです。逆に、極端なことを言えば、サイロ状<sup>※4</sup>になっている化学工学などは、もうちょっと減らしてもいいとさえ思います。

**永田:** 筑波大学の工学系は建学の時から情報工学が中心でした。最初から今の時代を見据えた大学のつくりをしてきました。ただ、全く新しい発想のシステムを作るというようなことに、どれだけの人が取り組んでいるかというところちょっと不安です。あるものを応用してゲームを作るとか、あるものを転用するとか、そういうことには十分長けていると思います。

**小林:** なぜイスラエルはスタートアップができて、日本ではできないか<sup>※5</sup>。人口780万人弱のイスラエルからは、極めて斬新なアイデアが次々に生まれてきますが、一億人以上もいる日本から生まれる

のは、「AとBを足してCができた」という程度のものがほとんどです。「Google X」<sup>※6</sup>のトップを務めるアストロ・テラー氏と話した時に、彼は「10%を変えるのではなく、10倍変わるものを考えなければいけない」と言っていました。「ただか10%コストダウンするようなことはほとんど意味がない」ということです。こういう考えを投げかけていかないと組織はなかなか変わらない。「5%のコストダウン、よくぞやった」って、偉くなっていくのが日本ですから(笑)。

**永田:** その通りですね。

**小林:** 極めて破壊的なイノベーションをやろうという雰囲気を作っていないといけないのだと思います。経済界も政府もようやく気がついて、「やらなければ」という雰囲気が出てきましたが、アメリカやドイツの垂流ではなく、日本流にバーチャルなテクノロジーと実際のものづくりをどうハイブリッド化するか。これをぜひ学生さんにやってもらいたいですね。

**永田:** 頭の柔らかい若い人に(笑)。そういう学生を、僕らは育てなきゃいけません。化学工学の学生を減らすという話が出ましたが、僕のやってきた生物学だって、もう終わりなんですよ。大きな問題はもうクリアされてしまった。ゲノムもITの世界になって、計算上は解明されています。これから実証していく必要はあるし、どうしても計算に乗らないものを見つければ、それが発見につながるのでしょうか。

**小林:** 材料設計も、有機化学の経験的な合成ではなく、AI(人工知能)で行う時代になってきました。アメリカでは、コンピューター・シミュレーションを駆使して、優れた機能を持つ新材料を生み出す「マテリアル・ゲノム」という取り組みを開始しています。これから日本が生き残っていくためには、シミュレーションもわかり、かつ高分子材料など他の高度分野の知識も持っているというような、「ハイブリッド人材」の育成に相当力を入れていく必要があります。





## 大学改革を先導する責任を果たす

**永田**：日本の国立大学というのは、世界の中でも独特です。オーストラリアには国立大学が1校しかありませんし、欧米でいえば、ドイツ以外にはほとんどありません。日本は、明治時代に一気に近代化した中で帝国大学ができ、その後も、新制大学も含めて、「国の力で作るしかない」といったことが基盤にあるわけですけれど。今問われているのは「国立大学をどうするか」という問題です。ご存じの通り、過去のノーベル賞受賞者は全部国立大学出身ですし、能力が下がっているわけではないのですが、改革が遅いのです。

**小林**：そうですね。今、私立大学は大きく変わってきていますが、国立大学は現在の制度や仕組みの下では変革が難しいところもあるかもしれません。しかし、国立大学も構造改革をやっているかなくてはならない。私が学生だったのは40年以上も前ですが、専攻はインターディシプリナリー・サイエンス（学際科学）でした。当時から「数学、物理学、化学、生物学という分類はない。生物物理学であり、生化学であり、量子力学に統計力学を合わせたものであり、というように、境界領域にしか社会の課題を解決する方法はない」という考え方をしていましたから。それからもう40年以上経っているのに、専門領域というサイロを壊して横串を通すことがまだ実現していません。

**永田**：よく学生にも言うのですが、今から500年前に戻ると、学問の種類には、数学と天文学と論理学くらいしかありません。学問には、融合や廃止、次のものへの転換などが普遍的にあるはずで、それが、新しい学問を生んできました。でも、今

学問をしている人は、そこに安住してしまっていて、変化しようとしません。

**小林**：それが楽だからですね。チャレンジするというのはきついことですが、「自分を守るために、10～20年このまま教授でいらればいい」というような感覚は捨てて、チャレンジし続けないと未来はありません。

**永田**：そうですね。

**小林**：大学改革に関しては、学長の裁量部分もかなりあるようですから、永田学長が変なことをやればいいんですよ（笑）。8割は今のルールに合わせても、2割はやりたいことをやったらいいかがですか。その2割で、とんでもない学生を作るために、とんでもないアイデアを出して、そこで自由にやらせると。そういうことに期待したいですね。

**永田**：筑波大学はよくできた大学です。つまり、それが可能なんですね。この大学の第一の理念は「とにかく人がやっていないことをやらなければいけない」。システムも教育も研究も全てにおいて。ですから、「これも一番初めだった」「それも一番初めだった」というのがDNAとしてあります。先程お話があった学際的な教育なども、日本で最も積極的に取り組んでいる大学だと自負しています。後は、僕がどう英断をふるって、どういうスピード感でやるかということですね（笑）。これからしばらくが勝負の時です。2年では難しくても、4年かけてはいけないと思うので、その間くらいで、「国立大学はそういう方向に行くんですね」というように示さないと、新構想大学として出発した筑波大学の存在感がなくなってしまいます。

**小林**：ロケーション的にも産業技術総合研究所など周囲にたくさんの研究機関が集まっている筑波大学は、すごく

大きなポテンシャルとチャンスを持っている大学だと思いますよ。

**永田**：荒野に大学やいろいろな研究所を作って、それぞれがそれぞれの殻を一生懸命作ってきました。今、ようやく開放に向かったという感じです。研究所の方々と、「つくばで何か新しいイノベーションを起こそう」という話をよくするようになりました。

**小林**：米国では、新しいコンセプトやテクノロジーのほとんどがスタンフォード大学やハーバード大学など、企業との連携に積極的な大学から出ています。筑波大学もそのような産学連携の場になってほしいですね。

**永田**：最後に、本学の教職員や学生に一言お願いします。

**小林**：人生は、偶然生まれたことから出発しますが、どうせ死ぬのであれば、生きている間に、何か「俺はこれをやったんだ」「私はこれを残したんだ」と言えることをやってほしい。そのためには、自分の強いところを見つけて、そこに猛進するということだと思います。

**永田**：本日はどうもありがとうございます。

### ※1 IOT (Internet of Things)

モノのインターネット。世の中にあるさまざまなモノに通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互に通信することによって、自動認識や自動制御などを行うこと。

### ※2 インダストリアル・インターネット・コンソーシアム (IIC)

2014年春に、アメリカ企業のGE、AT&T、シスコシステムズ、IBMが結成したオープンな非営利団体で、参加企業を大きく増やしている。サイロ化したテクノロジー間の障壁を取り除き、機器同士のコミュニケーションを改善することなどが目的。

### ※3 Industrie 4.0

2011年11月に公布された「High-Tech Strategy 2020 Action Plan (高度技術戦略の2020年に向けた実行計画)」というドイツ政府の戦略的施策。

### ※4 サイロ状

サイロは家畜の飼料貯蔵庫。窓がなく周囲が見えないことから、組織が縦割り構造になっていて、外部との連携を持たず、孤立しているさまを示す。

### ※5 スタートアップが多いイスラエル

人口約776万人のイスラエルにおけるベンチャーキャピタル (VC) の年間投資額は2000億円で、人口約1億人の日本の約2倍。

### ※6 Google X

多様な先端プロジェクトに取り組むグーグルの研究部門



SPECIAL TALKING 02

対談 02

# 巨匠たちの語り場



洋画家

藪野 健 氏



洋画家

玉川 信 一 副学長

洋画家の巨匠、藪野健氏をはじめ、日本藝術院会員3人を擁す「二紀会」は、新人の発掘や育成に定評がある公募美術団体です。玉川副学長が初めて出展した二紀展で出会って以来、40年にわたって親交を深めてきたというお二人に、その出会いや留学体験、大学などについて語り合っていました。



玉川：藪野さんとお会ってからもう40年くらいになります。私が21歳で、初めて二紀展に出品した時に、会場で声を掛けていただきました。その後、もうすでに画壇にデビューした30代の先輩たちの「私風景」というグループ展に参加させていただいて…。

藪野：そうでしたね。私は32歳でした。

玉川：キャリアのある人たちが、僕らみたいな駆け出しと一緒にグループ展をやるということは、当時としては、とても革新的なことでした。しかも、銀座のかなり大きな画廊で、大きな作品を展示する展覧会でしたから。

藪野：大胆でしたね。

玉川：それに参加させていただいたのはすごくラッキーなことで、とても嬉しかった。朝早くからトラックに乗って、作品を集荷して回り、先輩たちが絵を描いている現場を覗き見できたのも面白かったです。藪野さんの部屋はかなり広くて、片側の壁全面が本棚だったのを覚えています。藪野さんというと、当時から、ブルーの空のイメージがすごく強かったのですが（※藪野氏の作品の大きな特徴は「藪野ブルー」と呼ばれる澄んだ青い空）、ワンカップ大関の中に青い顔料を溶いて、空を塗っていたのがすごく印象的でした。あれは何だったのですか？

藪野：たぶんその頃はテンペラと油彩の混合でやっていました。いろいろやりましたね。最初の頃は、エンコスティック（蜜蝋）であったり。むしろ一番難しいのは、油絵具だけを使うことです。だんだん、その難しいことをやるようになって

いきました。

玉川：ワンカップ大関の謎が解けました（笑）。二紀会には10歳ずつくらいの世代の塊があって、それぞれ各世代に対する面倒見がいい。私は、藪野さんたちに出会わなかったら、絵描きになっていないと思います。それまで自分が絵描きになるとは考えていなかったけれど、皆さんとお付き合いさせていただいているうちに、「自分もここで勝負したい」と思うようになりました。

藪野：私が二紀展に出展し始めたのも大学1年生の頃で、先輩方によくしていただきました。二紀会のメンバーとは、今でも途切れることなく、仲間として友人として付き合い続けています。70を過ぎても20代の人とも一緒にね。そういう集まりは珍しいと思います。

玉川：よく学生にも言うんですけど、教授だの審査員だのと言っても、会場に絵を並べてしまえば、外から来る人には関係ありません。見る人が「その絵が好きか」「嫌いか」というだけです。だから、絵描きなどの芸術家は年齢を越えた関係ができるのでしょうか。それは逆に言うと、肩書きに頼れないということでもあります。僕は、日頃学生に偉そうに絵の事についてさまざま言っているわけだから、そういう場では表現として負けなように学生を力でねじ伏せるぐらいのつもりで、新しい作品に取り組んでいます。

### 大学時代の出会いが人生を決める

玉川：藪野さんは、画家であるお父様の影響で画家になられたのですか？

藪野：中学生の時の美術の成績は3でした。授業の時、先生に「みんな、こんな絵を描いちゃだめだよ」と悪い見本にされたこともあります。だから、絵描きになるなんて考えたことがなくて、早稲田大学の理工系に進学しました。でも、大学に入ってから幾つか面白いことがあって。1つは、金山康喜、須田国太郎という2人の画家の作品と出会って感銘を受けたということです。もう1つは、自分でも急に絵が描きなくなったこと。なぜかという、建築や工学には、法規であるとか、材料であるとか、現実の制約がすごくあります。でも、絵には制約が全くない。どこへでも、どの時代にも行けるし、誰にでも会えます。しかも、描いた絵描きが亡くなってからも、その作品は語りかけてきます。そういうことにすごく魅力を感じました。この気持ちを父親に話したら、返事の前に、油絵具一式がどんと送られてきましたね。油絵の描き方がわからなかったので、失敗を繰り返しながら、自己流で描き方を身に付けていきました。

玉川：日本では美術教育を受けたことがないのですね。スペイン・マドリッドのサン・フェルナンド美術学校プロフェソラードに留学されていますが…。

藪野：留学は初め、マドリッドの工科大学で、チュリゲラというバロックの建築を中心に研究する予定だったのです。でも、プラド美術館でベラスケスやゴヤに出会ってから変わったのです。ベラスケスの絵には、圧されるような力を感じました。あれほど力強く、気高いものに出会ったことはなかったもので、衝撃的でした。







藪野 健氏 洋画家

1943年 愛知県 生まれ  
 1969年 早稲田大学大学院文学研究科修士課程芸術学(美術史)専攻修了  
 1970年 マドリード、サン・フェルナンド美術学校に学ぶ(～1971年)  
 1976年 武蔵野美術大学造形学部映像学科教授(～1999年)  
 1999年 早稲田大学芸術学校空間映像科教授(～2010年)  
 2009年 日本芸術院章受賞、日本芸術院会員  
 2010年 早稲田大学基幹理工学部表現工学科教授(～2014年)  
 2011年 早稲田大学會津八一記念博物館館長(～2012年)  
 2014年 早稲田大学荣誉フェロー、名誉教授、維持員  
 ※二紀会副理事長、府中市美術館館長

著書として「明治建築の旅」新潮社刊、「絵画の着想」『プラド美術館 名  
 が隠れた謎を解く』『早稲田風景 紺碧の空の下』以上中央公論社新社刊

た。ベラスケスの「ラス・メニーナス」は、絵に向かって歩いていくと、遠くからは緻密に描かれていると思っていた絵が、あるところまで近づくと、とても荒いのに気がつきます。また後ろに戻ると、細密画のように見えるのです。目の認識と捉える意識のせめぎあいをよく知っているのですね。死を前にしたゴヤの「黒い絵」シリーズには、「絵を描くことが人を生かす」と実感しました。いろいろな美術館に行きましたが、人生観が変わる出会いがあったのはプラド美術館だけです。

玉川: プラド美術館のベラスケスの作品を幾つか見ると、絶対的な描き手の資質みたいなものって、変えられないのだろうなと思うくらいの、ある種の気品、品格みたいなものを感じました。ベラスケスは、すさまじい上手さだから。

藪野: 絵の上手さでいったら、美術史の中でも1、2を争う絵描きでしょうね。

玉川: 僕はずっと、藪野さんはなんでスペインに留学したのかなと思っていましたが、最初の目的が建築史の研究だったと伺って納得がきました。スペイン留学も、絵描きの世界にぐっと近づいた大きな転機ですね。

藪野: スペインに行かなきゃ絵描きになっていないでしょうね。それに、もし

早稲田大学でなく芸大や美大に行っていたら、絵描きになっていなかったと思うし、なれなかったと思います。

玉川: 藪野さんが、いわゆる美術教育を受けて、見たものを描くことから出発し、対象にうまく感情移入して描いている人と違うことは感じます。藪野さんも、風景などの対象を目でよく見て確認してはいるけれども、実際に描く時には、堆積された目の記憶から紡ぎ出されるものを重要視している。だから、表現の背景にある思想性のようなものが伝わってくるのだと思います。特に、青の色は、デビューされた時から今までこだわっておられる。その青は、実際に目に見えるものと、絵の世界に堆積された記憶の部分を見事に分離した上で融合させる要素として、単に目に映っているリアルとは違うものを補強しているような気がします。

藪野: 僕にとっての青は、ほとんど「無」(nada)に近い感覚なのではないかと思っています。金地屏風の金地と同じ。実際には、意識の上の世界であって金の世界でないわけですね。僕は、最初スペインに行った時に、空を見て、「ああ今日は日本晴れだな」と思いました。日本晴れというのが、スペインでも使えるかどうか分からないけれど。そういう空が、毎日



玉川 信一 副学長 洋画家

1954年 福島県 生まれ  
 1978年 東京教育大学大学院教育学研究科修士課程美術学専攻修了  
 1985年 筑波大学芸術学系講師  
 1992年 文化庁在外研修員特別派遣渡仏  
 2003年 筑波大学芸術学系教授  
 2008年 筑波大学芸術系長  
 2009年 筑波大学芸術専門学群長  
 2012年 筑波大学大学執行役員  
 筑波大学芸術系長  
 2015年 筑波大学副学長(学生担当)  
 ※二紀会理事

毎日続くと、ありがたいという気持ちがなくなって、無になっていくのです。

玉川: スペインの青なのですね。

藪野: スペインの青でもありますが、人生で最初に認識した青でもあると思います。2歳か3歳の時に、ぱっと空を見たら真っ青だったという一番最初の記憶。戦争で崩壊した建物の上に広がる、透き通るような青い空。その青が頭に焼き付いています。

玉川: 僕自身は、親の仕事の都合で、東北の町を1、2年ずつ移動しました。そのせいか、具体的な風景や建物に対する思い入れがありません。だから、どうしても人間が出てくる。人間というより自分が出てきてしまう。別に自分を出したいというわけではなくて、「そこには自分しかない」という感じがあるのです。

藪野: それは舞台を描いているのか、その中で主役を描いているのかという違いなのかもしれませんね。

玉川: 筑波大学の芸術専門学群は、芸術専門の学生を育てるという意味では美大ないしそれに準ずるところですけど、大学全体として「総合大学で、学際的な幅広い教育を行う。その中で、自分が選んだ道の専門性を追求しなさい」という考え方があります。ですから、芸術専門学群では、自由に専攻が変更できるように



なっていて、書で入学した学生がデザイナーで卒業したり、芸術学専攻で、デッサンの試験も受けずに入学した学生が、油絵で卒業することもあります。

藪野：それはいいシステムですね。大学に入って、初めて出会う学問の世界ってあるじゃないですか。私は、大学で、建築の今井兼次先生、美術史の安藤更正先生、美術評論の坂崎乙郎先生、この3人の先生に出会った時に、自分が根底から全て崩されるという経験をしました。崩壊したところから、つまり、ゼロから自分を作っていたというの、ゼロから油絵を描き始めたことと、ひょっとして深く関わっているのかもしれない。自分の中にある可能性を拓くことができたり、行動に移したりできるのは、学生時代という限られた時期だけではないでしょうか。頭脳だって、興味だって、体力だって、そういうことができるチャンスはそれ程ありません。

玉川：藪野さんは、絵描きになる導入も違ったけれど、結果として現在まで講義などで学生に伝えている部分でも幅が違



いますよね。

藪野：経歴からかもしれませんね。早稲田で講師をしたのは、理工学部と政経学部でしたし、リタイアした今でも機械工学の授業をしています。

### “状況が違うことが日常化すると何でもないことになる”海外留学

玉川：僕は、30歳後半になって、文化庁在外研修員特別派遣としてフランスに行くことができましたが、昭和40年代に海外に留学するというは、すごく大変なことだったのではないのでしょうか？当時は、行きたいと思っても行けないという感じでした。

藪野：海外渡航が珍しい時代だったので、誰かが行くとなると、羽田空港に見送りに行ったものです。僕の時も、ひときわ薄汚れたエンジ色の旗を振る一団が見送ってくれました(笑)。その中には恩師の安藤先生の姿もありました。その頃安藤先生はがんセンターに入院されていて、僕がスペインに行っている間に亡くなったのですが、病気の体を押して、研究室の学生に抱きかかえられながら送ってくださったのです。

玉川：今より行く覚悟も必要だったでしょうね。筑波大学では、留学生をたくさん受け入れると同時に、日本人学生の海外留学を奨励しています。学生の海外

留学についてどのようにお考えですか？

藪野：留学するということは、日本にいて何の現状も変更しない学生生活に比べるとリスクがあります。でも、だからこそ危機管理能力が身に付きます。人の助けがないということは、自分で物を考えて自分で行動しなければいけないし、自分で責任を持たなければいけない。そういう自律した人間を作ることができるので、学生にはぜひ外国に行ってほしいと思います。それに、国が違えば、地面の色も違うし空気も違う。いろんな状況が違います。でも、状況が違う中でも生活を重ねているうちに日常化して、違いというものが特別なものでも何でもないもののように思えてきます。ぜひ体験してほしいと思います。

玉川：飛行機から見ると、スペインの土の色は真っ赤だし、イタリアは黄色ですよ。そういう土の色の違いを知っただけでも、経験するってすごいなと思いました。視覚的な記憶って重要だと思います。それから、海外で生活すると精神的にタフになりますね。

藪野：そうですね。日本に帰る頃には「自分は世界中どこでも大丈夫」という自信ができました。食べることにしてもね。2ヶ月間エジプトで模写生活している時もそうでした。毎日羊の肉だったんです。「今日も同じか」と思っているうちに、どんどん微妙においしく感じるようになって





ていきました。それから、留学すると現地の友人が増えますよね。それは、人生において大きなことです。

玉川：言葉の壁を心配している学生もいるようですが、言葉はたいしてできなくても、友人はできるし、生活するのに問題は無いですよ。大学の講義をうけるとなると大変なので、ある程度できるに越したことはありませんが、僕の場合は芸術だから困りませんでした。

藪野：僕は、英語もスペイン語もフランス語も通じないところにも行きましたが、絵を描けば伝わりました。そういう時、絵描きっていいですね(笑)。ところで最近、高校生くらいから留学する人もいようだけれど、あまり早くから行く必要はないと思います。アイデンティティがなくなってしまうから。大学生になると批判することもできるし、自分で物考えることができる。大学時代が、留学するのに一番いい時期だと思います。

### 筑波大学に美術館を

玉川：最後に、筑波大学に一言お願いします。

藪野：筑波大学は、東京師範学校、東京高等師範学校、東京文科大学、東京教育大学と、有数の古い伝統がありますね。そして、伝統がありながら、新しいものに対して、拒否反応が少ないというイ

メージがあります。すごく興味があるのは、今後、どういう形で伝統が生きていくかということです。

玉川：筑波大学は一昨年開学40周年を迎え、その記念事業をする際に、「筑波大学開学40+101周年記念事業」と命名しました。古い伝統を大切にしながらも、進取の気迫というか、新しいものに対してチャレンジする精神を持ってほしいという想いが込められています。両方がないまぜになって、うまくいきさえすれば、いい大学になると思います。

藪野：それは素晴らしいことです。早稲田大学は、大隈重信や小野梓ら先人の心意気と若者への情熱という遺産で成り立っている大学です。だから、先人のやってきたことを語り継いでいくことを大切にしています。

玉川：大隈重信像や大隈講堂は早稲田大学の精神的シンボルになっていますよね。総合大学にはそうした精神的シンボルが必要だということで、本学では、大学会館前の広場に、教育大の庭にあった朝倉文夫作の嘉納治五郎像を建てました。

藪野：早稲田大学には、會津八一記念博物館や演劇博物館があって精神的シンボルとして機能していると思います。自分が今、美術館の館長をやっているからではありませんが、筑波大学もぜひ美術館を作ってほしい。その美術館は、精神的な拠り所になるでしょうし、理工系の人



も医学系の人、みんながそれを見ることができることによって、芸術に対する考えが変わってくると思います。美術館があればいつでも本物に触れることができます。本物は、画像で見るとは違って、五感すべてに語りかけてきますから。それはすごく大事なことです。

玉川：世界的に見れば国際的な大きな大学には、必ず美術館や博物館がありますからね。ところで、筑波大学では、12月に「新進芸術家育成交流作品展 ファインアート・ユニバーシアード」を大学ギャラリーで開催します。文化庁の「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」の採択を受けた企画で、今回が第3回展。国内と国外合わせて30校から推薦してもらった作品を展示します。それと、今年は、戦後70周年でしょう。広島市立大学芸術学部でやっている、被爆者や被爆2世、3世の肖像画を描く「光の肖像」というプロジェクトの作品も、ファインアートの一部の展示として紹介します。ぜひ見にいらしてください。

藪野：楽しみにしています。





# 筑波大学と世界遺産



- ① バウハウス博物館
- ② ワイマール城
- ③ 国民劇場前のゲーテとシラーの像
- ④ 大公家の墓(ゲーテとシラーの墓)
- ⑤ アンナ・アマーリア大公紀図書館

## File #5 古典主義の都ワイマール／ バウハウスとその関連遺産群

世界の文化遺産を守るための研究対象として、筑波大学は多くの世界遺産とのつながりがあります。文化財の価値や保存活動の一端を、現地でのフィールドワークの様子なども交えて紹介していきます。

ドイツ中部に位置する人口6万数千人の小さな都市ワイマールには、2つの世界遺産があります。18世紀末から19世紀初めの文学や思想をけん引したドイツ古典主義の都と、20世紀前半のデザイン界に大きな影響を与えた美術・建築の総合学校バウハウス。新旧を代表する文化は同じ町で花開き、それぞれの栄華を偲ばせる文化財が共存しています。カントの弟子であり、ドイツ古典主義の時代にワイマールで活躍した哲学者ヘルダーを研究する杉山卓史助教(芸術系)に、哲学における「美」の捉え方や、世界遺産としてのワイマールの価値について伺いました。

### 対照的な2つの世界遺産

ワイマールの中心市街地には、ゲーテやシラーなど多くの文化人が活躍した、18世紀末から19世紀初めの建物や公園が

あり、その外側には、20世紀前半にモダニズム建築を生み出したバウハウス大学があります。前者は「ドイツ古典主義の都」として1998年に、後者は「ワイマールとデッサウのバウハウスとその関連遺産群」として1996年に、それぞれ世界遺産に登録されています。ベルリンのような大都市ならともかく、小さな町の中に、対照的な顔をもつ2つの世界遺産が共存しているというのは、極めて稀有な例です。

ドイツ古典主義が興った背景には、当時のヨーロッパにおけるドイツの状況があります。ドイツは小さな国に分かれており、政治や経済の面で後進国として扱われていました。その遅れをカバーするために、哲学や文学などの内面的な考察を伴う文化を発展させたのです。その際、国民の意識を喚起しようと、内面性を託すシンボルとして宗教的で壮大な建築物をつくったのです。それらは現代においても、誰もが分



杉山 卓史 助教

University of Tsukuba



かりやすい文化財として残されています。

バウハウスは、第一次世界大戦に敗れた後の政治的混乱期に、建築家グロピウスによって設立されました。多くの芸術家や建築家が新しいドイツをつくろうとする中で、グロピウスには、ドイツ古典主義の聖地から文化的復興を目指したいという思いがあったようです。古典と斬新さの共存は、ある意味、必然だったのかもしれませんが。

### 「美」をめぐる哲学論争

かつて、「美」とは何かをめぐって、カントとその弟子のヘルダーの間で激しい哲学論争が繰り広げられました。哲学、とりわけ「美学」の世界では、個々の具体的なモノが美しいかどうかではなく、美しさを感じ取る感性の働き、あるモノを美しいと認識するメカニズムが議論されます。カントは、対象物についての知識や機能、すなわち「関心」を排除し、純粋に対象物の存在のみを見て、それが自分にとって心地よいかどうかを認識する、と考えます。これに対してヘルダーは、対象物が美しいと感じるとき、そこには関心も含まれる、つまり、美しいものへの関心という関心もあるはずだと反論します。

美学が扱うのは芸術作品とは限りませんし、芸術作品も美術館に収蔵されているものだけではありません。カントとヘルダーの議論が示すように、ドイツ古典主義では感性と美しさと芸術は三位一体であることが前提で、「機能美」という概念もありませんでした。しかし、時代の流れとともに、バウハウスのようなデザインと機能性を重視した芸術や、いわゆる美しさとは別の表現を意図した芸術作品も出現しています。そこで近年は、美しさや芸術性を切り離し、感性のみに着目して美を捉えるようになってきました。

### 観光とは一線を画した文化財保護

ワイマールの世界遺産の構成資産の一つ、アンナ・アマリア大公妃図書館は、2004年に火災に見舞われ、建物や多くの貴重な蔵書が被害を受けました。以来、ずっと続けられてきた修復・復元に関する展覧会が、今年、行われました。被害状況や修復の過程、修復費用の財源内訳なども公開されており、文化財に対する町や市民の姿勢がよく分かります。

観光資源となる世界遺産が2つもありながら、実際のワイ



シラーの家(左)とゲーテの家(右)



ヘルダーの家

マールは、それほど観光に力を入れているという感はありません。世界遺産登録後は「ヨーロッパの文化首都」というキャッチコピーができ、観光客も増えてはいるものの、むしろ淡々と文化財を維持しているという印象です。世界遺産であるということにこだわらず、歴史的な重要性という文脈で文化財を位置づけ、それを淡々と守っていくことに意義を見出しているようでもあります。

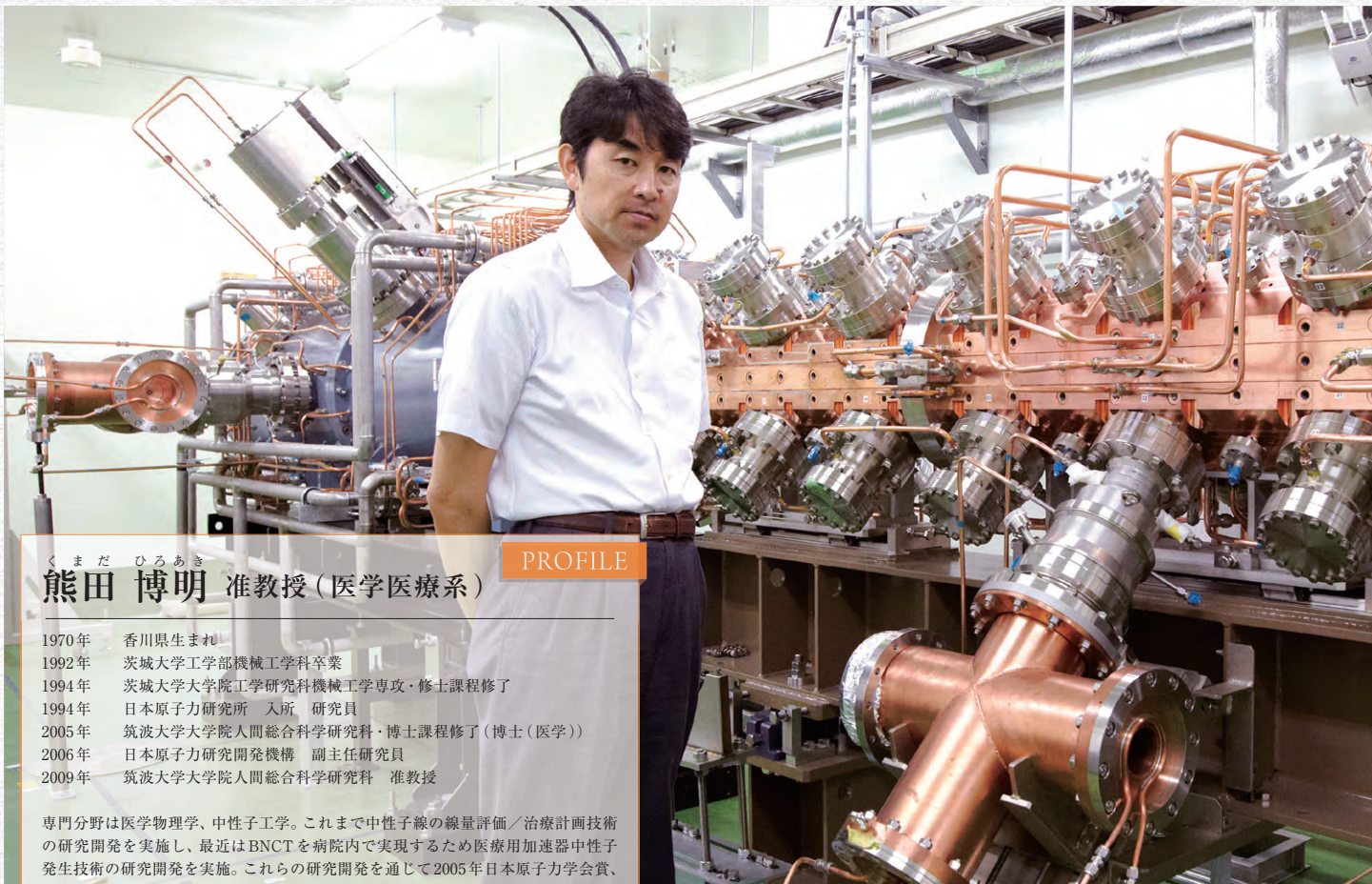
### 変わりつつある文化財の価値基準

美をめぐる論争は結論が出るものではありませんが、文化財の価値判断の指針になります。かつては、大聖堂や城のような、ある程度古く芸術性がある典型的な文化財が世界遺産に登録されましたが、今では、先史時代や近現代、アジアやアフリカ地域、景観や産業遺産などにも目を向け、多様な価値付けがなされるようになってきました。

ワイマールの街並みは、必ずしも美しいというものではなく、国際的に文化財の保護が求めるような危機ありません。それでも登録されたのは、その歴史的背景が普遍的な価値として認められたからです。富士山のように、他の芸術や文化にインスピレーションを与えたこと、すなわち形に現せないものにも価値を見出すべきだという考え方も出てきました。すでに無形遺産条約が制定されており、この流れはさらに広がっていく気配です。ワイマールはその転換期を象徴しています。

& World Heritage Site





くまだ ひろあき  
**熊田 博明** 准教授 (医学医療系)

PROFILE

1970年 香川県生まれ  
1992年 茨城大学工学部機械工学科卒業  
1994年 茨城大学大学院工学研究科機械工学専攻・修士課程修了  
1994年 日本原子力研究所 入所 研究員  
2005年 筑波大学大学院人間総合科学研究科・博士課程修了 (博士 (医学))  
2006年 日本原子力研究開発機構 副主任研究員  
2009年 筑波大学大学院人間総合科学研究科 准教授

専門分野は医学物理学、中性子工学。これまで中性子線の線量評価／治療計画技術の研究開発を実施し、最近ではBNCTを病院内で実現するため医療用加速器中性子発生技術の研究開発を実施。これらの研究開発を通じて2005年日本原子力学会賞、2006年文部科学大臣賞などを受賞。

ます。この場合、瞬間的に強いビームを出すことが重要ですが、医療ではむしろ、一定の強度のビームを安定して出し続けることが求められます。また、ビームを患者に照射する際の角度や時間のシミュレーションなど、治療の条件検討も必要です。医学と物理・工学の専門知識を併せ持ち、双方の要求を満たしながら、医療器具としての加速器を開発できる人材は、とても貴重な存在です。

■人材育成の拠点も担う

BNCTの原理は1930年代にすでに提唱されましたが、技術の進歩が追いつき、実現のめどが立ったのは最近のことです。現在、BNCTに取り組んでいる機関は国内に4カ所あります。そのうち筑波大学などが開発中のプロトタイプ装置は東海村に設置されており、まもなく完成します。中性子の出力や安全性を確認した後、来年の上期中にも患者に適用した臨床研究を開始できる見込みです。さらに薬事治療を経て、治療方法として認められると、医療として提供することが可能になります。

将来的には、同様の加速器を附属病院に設置することを目指しています。それによって、より多くの患者が治療を受けられるようになり、外科手術や抗がん剤との併用や、すでに実施している陽子線治療との使い分けもでき、個々の症状に応じた最適な治療法が選べる、がん治療の世界的拠点となることが究極の目標です。

この治療が普及するためには、加速器を操縦・運用できる人材の育成も欠かせません。これに当ってはまる資格が医学物理士です。た

だし、全国に数百人いる有資格者のうち、現在、BNCTを扱えるのはわずか4人程度。筑波大学は、治療方法の確立と並行して、医療スタッフがBNCTの経験を積み場としての役割も担っています。

■医学・工学・化学の力を集結

もともとはソフトウェア開発が専門でしたが、東海村の原子炉で工学者として附属病院の医療チームと共同研究をしたことがきっかけで、BNCTという新しい治療法に出会いました。筑波大学に移って本格的に研究を始め、治療によって実際に患者が治っていく様子を見るにつれ、加速器の開発にやりがいを感じるようになりました。

BNCTは医療ですが、そこには医学・工学・化学などさまざまな分野の最先端の知見が詰まっています。がんそのものの生理学的な性質の理解、中性子や加速器を活用する技術、中性子と反応する有効なホウ素薬剤の開発、これらが一体となってはじめて、治療方法として完成するのです。このようなコラボレーションができる環境が整っていることが筑波大学の強み。特に、臨床研究が動き出しているから、力の見せどころです。

治療成績や適用可能ながんの種類などの面で、日本のBNCTには世界中の注目が集まっています。臨床データが蓄積されていけば、医薬メーカーの積極的な関与も期待され、一気に研究に弾みがつくことでしょう。

この治療方法を待ち望んでいる患者は大勢います。1日も早く先進医療や保険診療の道を開き、多くの人に提供したいという熱い思いは、医師も技術者も同じです。



# 聴

熊田博明 准教授（医学医療系）

## 病院で加速器が動き出す日 中性子が拓く次世代がん治療の最前線

早期発見・早期治療ががん治療の基本です。しかし、治療が難しい部位や再発といった課題は常につきまといまいます。そんな中で注目されているのがホウ素中性子捕捉療法。放射線治療の一種ですが、正常な組織に与えるダメージが少なく、手術が困難な部位や、悪性のがんに対して効果の高い治療方法として期待されています。医学物理士として、そのための加速器開発に携わり、さらに治療方法の確立に向けて、医療との橋渡し役を担っています。

### ■短期間で効果を得る中性子治療

ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）は、ホウ素と中性子が反応して生じるアルファ線とリチウム粒子によって、がん細胞を選択的に破壊する治療法です。がん細胞だけに集まる性質を持つ薬剤にホウ素を導入し、これを投与することでがん細胞にホウ素を取り込み、そこへ中性子線を照射します。がん細胞内で発生するアルファ線とリチウム粒子が飛べる距離は10ミクロン程度。ちょうど細胞1個のサイズに相当します。つまり、がん細胞のDNAだけを破壊し、そこで止まるので、周囲の正常細胞への影響はありません。

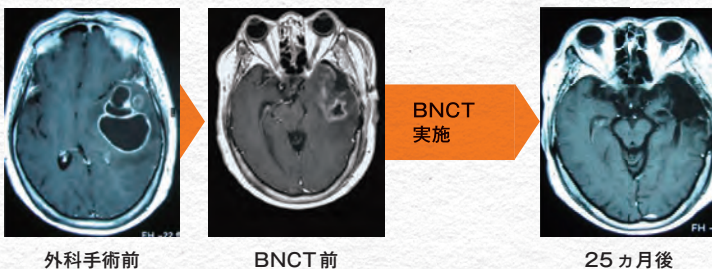
とりわけその効果が発揮されるのは、悪性の脳腫瘍や頭頸部のがんなど、外科的に取り除くことが難しいがんです。放射線治療で一般的に使われるX線は、体内を通り抜けるため、がん細胞に集中して照射することが難しく、周囲の正常な細胞にもダメージを与えてしまいますが、BNCTを使えば、正常細胞の中に散らばったがん細胞だけを選択的に攻撃することができます。がんが再発した場合でも、正常細胞が許容できる放射線量を越えることなく、繰り返し放射線治療を施すこともできるのです。

また、通常の放射線治療では数10回の照射が必要で、治療期間も1カ月以上に及びますが、BNCTだと重篤な症例でも30分程度の照射1回で十分です。BNCTの殺細胞効果はとても強力で、照射後、1カ月程度でがんが消滅していきます。BNCTは、患者にとつての負担が小さい上に、高い治療効果が得られる画期的な方法です。

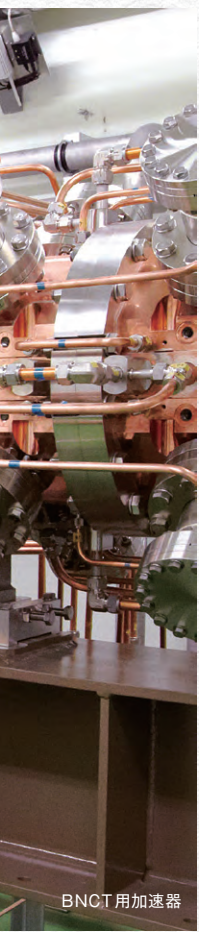
### ■加速器と医療をつなぐ

この治療方法に不可欠なのが中性子線を発生させる装置です。その方式には、原子炉を使うものと加速器を使うものの2通りがあります。原子炉方式は、東海村と京都大学で研究されていますが、東日本大震災後、いずれも稼働しておらず、運用面で治療方法としての実現は不可能な状況です。一方、加速器方式は、装置を病院に併設でき、原子炉のように高度な放射線管理や定期的な停止させる必要もありません。臨床研究を進め、医療の段階へとステップアップすることができます。

### ● 悪性脳腫瘍のBNCTによる治療例



外科手術で肉眼で見えるがんの塊を取り除いた後、細胞レベルで残っているがんに対してBNCT治療を施したところ、治療後2年経過しても再発は見られない。（一般的な外科手術にX線治療を組み合わせた療法の場合、通常、細胞レベルで残っているがんが再発する）



BNCT用加速器



# 学内組織紹介

筑波キャンパスは、東西約1km、南北約4kmの広大なキャンパス（東京ディズニーリゾートの面積の約2.4倍）です。広いキャンパスにはさまざまな教育・研究組織があります。その組織や施設がどのように設置され、どのようなことをしているかを紹介いたします。

## 人文社会国際比較研究機構

Institute for Comparative Research in Human and Social Sciences

### Introduce

人文社会国際比較研究機構(ICR)は、2013年、文部科学省による研究大学強化促進事業の一環として、個々に行われてきた人文社会科学研究を体系的に推進し、現実社会の中で真に役立つ知識を構造化していくことを目指して設立されました。この事業の支援対象となった22の研究機関のうち、文系の研究分野を掲げたのは筑波大学だけ。その意味でもICRには大きな期待が集まっています。

#### 辻中 豊 機構長



#### 「並走型」分野融合の拠点

「人文社会国際比較研究」という名称には、筑波大学の文系研究のエッセンスが詰まっています。既存の、国際比較日本研究センター、西アジア文明研究センター、それに日本語・日本文化の研究グループ、それらをすべて巻き込んでひとつの組織にしたのが人文社会国際比較研究機構。従来、独立に行ってきた研究の全体像を俯瞰したり、相互交流や共同研究がしやすい体制になりました。

ICRが扱う研究分野は、世界各国の市民社会を分析する政治学・社会学、文明の発祥や移動過程を探る考古学、日本や世界の多様性を理解するための言語・文化研究など多岐にわたります。さらに、海外教育研究ユニット招致プロジェクトとして、インド・チベット学や仏教学にも取り組んでいます。一見すると、互いに接点のないテーマのようですが、中東など政情が不安定な地域での考古学の発掘調査は、まさにその国々の政治状況に左右されますし、政治イデオロギーや文化の形成には言語や宗教が大きく影響しています。

そういった関連性は、実は研究者自身もあまり気づいていませんでしたが、ICRとしてまとまったことで、相互の重要性が認識されるようになりました。ここでの異分野融合は、みんなが集まって新しい研究領域を創出するというよりもむしろ、さまざまな分野と共に刺激しあいながら「並走」することで、そ

れぞれが研究の幅を広げていくスタイルです。

#### 技術と社会、世界をつなぐ

近年、大学における文系分野の在り方が問われています。研究成果が世の中の役に立っていることが見えにくいという指摘です。確かに、実験装置や特別な施設はほとんど必要なく、成果が何らかの製品に応用されることもごく稀ですから、極端に言えば、大学へ来なくても研究はできるわけです。そのため、自分の興味だけに没頭してしまう「たこつぼ化」に陥ってしまいがち。そこから抜け出して、文系の知識を社会的な意義に還元することが求められています。

人文社会科学は人間の本质を知ること、人間の社会や文化についての学問です。現代社会では、人間とテクノロジーの尺度にずれが生じ、せっかくの発明や発見が十分に力を発揮できない場面が現れます。例えば、ロボットが普及した社会に必要な法律やインフラ、生命を人為的に操る技術を扱う倫理観、震災復興などは、まさに人間の社会や文化の問題。新しい技術は、人文社会科学のフィルターを通して初めて社会に実装されるのです。ICRの研究は、ロボット開発などの理系分野とも並走し、技術と社会の間をつないでいます。

また人文社会科学は、国際協力を推進する鍵でもあります。現在、筑波大学は12カ国に海外拠点を設けていますが、これらの





**18th ICR Seminar**

**Sacred Ambiguity**  
The Changing Face of Religion in Contemporary Nigeria

A Lecture by  
**Jacob K. Olupona**  
Professor, Harvard Divinity School  
Department of African and African American Studies,  
the Faculty of Arts and Sciences, Harvard University

7月15日(水) 18:00~19:30  
人文社会学系棟 A101

オLupona教授は、日本学術振興会平成27年度外国人学術交流費(奨励)「海外」派遣先として、筑波大学人文社会学系に招聘され、7月15日(水)18:00~19:30に「神聖な曖昧さ」をテーマに、筑波大学で講演する。講演内容は「アフリカの宗教と現代社会」に関する研究、特に「宗教と神話」に関するものである。

筑波大学大学院人文社会学系研究科・思想専攻/11号 共催

Member for Cooperative Research  
Innovation and Social Science  
筑波大学  
ICR  
筑波大学

筑波大学科学研究費助成事業特別助成費「国際共同研究」(国際共同研究)「西アジアの工芸技術」(国際共同研究)「西アジアの工芸技術」(国際共同研究) (国際共同研究) (国際共同研究)

第3回研究会  
日時: 2014年7月20日(日) 13:00~17:00  
会場: 筑波大学東キャンパス121講義室 (A1ノ内線有田台駅徒歩3分)  
公開URL: <http://www.icr.ac.jp/activities/seminar/>

**西アジアの工芸技術**  
**パイロテクノロジーの系譜**

13:00 13:15  
開会式  
13:15 13:30  
三宅 隆夫 筑波大学名誉教授  
13:30 13:45  
13:45 14:00  
14:00 14:15  
14:15 14:30  
14:30 14:45  
14:45 15:00  
15:00 15:15  
15:15 15:30  
15:30 15:45  
15:45 16:00  
16:00 16:15  
16:15 16:30  
16:30 16:45  
16:45 17:00

筑波大学  
ICR  
筑波大学



フランス国立社会科学高等学院で共催実施したシンポジウム



国々との関係構築のきっかけの多くは人文社会学系の研究活動です。アフリカ進出や資源確保といった日本政府の戦略の一端を担う形で、文化交流や教育支援を行ってきた、その蓄積が、現地の社会や文化を理解し、活動基盤を整える源泉になっています。

**成果発信と情報共有の窓を開く**

ICRでは、成果発信の「見える化」にも精力的に取り組んでいます。文系研究の世界では、10年単位で成果を集大成として出版する方式が定着しており、学会発表などはあまり重視されない傾向があります。また、「ネイチャー」や「サイエンス」のような国際的に認知された学術雑誌がなく、優れた研究でも論文は日本語でしか書かれないこともしばしばです。そのような事情があるにせよ、研究について定常的に広く発信するという姿勢が乏しいことへの反省がありました。

しかし10年に一度であっても、きちんとまとめられた成果は、その後、長期にわたって世界中で引用されます。ただし、そのためには英語や中国語などさまざまな言語に翻訳されることが不可欠。要旨だけでも英訳されていれば、引用や全編引用や翻訳のきっかけになります。さらに、出版事情も厳しくなる中、研究の途中段階の情報や埋もれていた成果を、ウェブなどを活用してどんどん発信していくための支援も進めています。人文社会学系で年1回発行する英語版電子ジャーナル「Inter

Faculty」もその一助です。「学術の世界にとどまらず、持っている情報を、ネット上の検索にヒットする形で積極的に見せることが、自分たちの研究にたどり着いてもらうための窓を開くことになるのです」(辻中機構長)

**存在感ある新しい人文社会学へ**

セミナーや講演会・シンポジウムなども、年間を通じて開催しています。それらのほとんどは、各分野の世界的な権威を招へいたり、国内外の研究機関との共催で行われており、海外で実施する場合があります。哲学や考古学からネット社会、震災復興、安全保障まで、従来の人文社会学の枠組みにとられない幅広いテーマでディスカッションを深めています。

ICRは、教育やビジネス、図書館情報の分野とも協働して、全学的な研究機関へと発展しようとしています。これらの分野の研究者は学内に350名ほど。実は教員の20%を占めるほどの大きなグループで、外国人や女性の研究者比率も高いという特徴があります。辻中機構長は、「多様な研究者が流動的に集い、一定期間、研究活動に集中できるような仕組みと環境を整えていきたい」と構想を語ります。互いの研究に入り込んで情報や知識を構造化すると同時に、さまざまな研究活動と並走し、技術と社会の懸け橋となる、そんな新しい人文社会学が生まれつつあります。



# 名物先生登場!

藤堂明保



本学には11の附属学校があります。それぞれの分野でわが国の教育をリードしており、全国でも有名な先生たちが大勢います。各学校で活躍する名物先生を紹介いたします。

つかだ かつろう  
塚田 勝郎 教諭  
筑波大学附属高等学校

1952年、新潟県生まれ。東京教育大学卒業。埼玉県立熊谷高等学校、同新座北高等学校勤務を経て、現職。全国漢文教育学会常任理事。高等学校用国語教科書(大修館書店)の編集に長年携わる。著書に『新人教師のための漢文指導入門講座』(大修館書店)、共著に『漢文名作選[第2集]1 古代の思想』(大修館書店)、共編に『現代漢語例解事典』(小学館)がある。

3年生の授業で使う教材は司馬遷の「史記」。紀元前に編纂された壮大な中国の歴史書です。その中の、戦国時代に繰り広げられた勢力争いの物語を読み解いていきます。戦乱の世でありながら、諸子百家といわれるさまざまな思想家が活躍した時代でもあり、塚田先生のお気に入りの題材の一つです。自分が面白いと思えるもの、自信を持って教えられるものを教材にすることが、国語科では大切なポイントです。

附属高校には6名の国語科教師がいますが、漢文の担当は塚田先生ひとりです。漢文は1年生では必修、3年生は選択科



目です。文系・理系のクラス分けはありませんので、どのクラスも両方が混じっており、受験目的で選択する生徒も、漢文が好きで選択する生徒もいます。1年生で句法や訓読を徹底的に学び、3年生では文学としての漢文をじっくりと読んでいきます。教科書に現代語訳はなく、代わりに、オリジナルのプリントが配られます。このプリントには、現代語訳と、読解のための設問があり、この設問をヒントに、物語としての理解を深めます。

授業中、教室の中は決して静かではありません。先生もあまり構わずに授業を進めます。生徒を大人として扱っているからです。それでも先生の問いかけに対して、生徒は的確に答え、その根拠や意見もきちんと述べます。期待した答えとは異なることもあります。それも間違っているわけではなく、むしろ新鮮な考え方にしばしば驚かされます。生徒同士で議論が白熱することもあります。物語にはいろいろな解釈があって良いのです。一方的に伝えるだけでは授業として



不十分。読み、訳し、そして考える、それが最も大切な学びです。

授業の冒頭、塚田先生は「文字学」について話し始めました。生徒にとっては初めて聞く学問です。各地で出土する木簡や土器、甲骨に刻まれた文字を分析し、他の史料と照らしながら文字の成り立ちや意味づけの根拠を解明していくプロセスや、私たちが普段何げなく使っている漢字が持つ、思いがけない意味やストーリーを紹介します。最近になって新たに発見されることや、未だに分からないこともたくさんある興味深い学問ですが、この分野を志す研究者が少なく、なかなか





か進展しないという現状も語られました。漢文の基礎となる学問の一端を伝えると同時に、大学受験を控えた生徒たちの進路選択の一助になればという思いが込められています。

漢文の神髄は、その簡潔さです。ひとつひとつの漢字に深い意味があり、内容が凝縮されたハードボイルドな文体が特徴です。歴史の記録としての側面もあるため、登場人物の細かい心情や情景描写は省かれていますから、字面だけを見ては、作品を理解することはできません。個々の漢字に込められた意味や、時代背景、先人の研究などの周辺情報を手掛かりに、物語を読み解いていくことが必要です。資料を調べ、根拠に基づいて思考を展開するという作業は、文字学のそれにも通じています。

この日の授業では、趙国の將軍、廉頗（れんぱ）と、成り上がりの家臣、藺相如（りんしょうじょ）のやりとりが取り上げられました。「刎頸の交わり」として知られる故事の前段となる場面。表面的には宴席での穏やかな会話ですが、当時の文化や、両者の生い立ち・気質と併せてみると、侮辱や腹いせの応酬で緊迫した

心理戦の様子が浮かび上がります。野球の攻防になぞらえた先生の解説も相まって、面倒な句法も忘れ、物語としての面白さに思わず引き込まれます。

40年にわたって教鞭をとってきた塚田先生は、漢文教育の第一人者として、研修会を開いたり、指南書を執筆するなど、後進の育成に取り組むとともに、自らのライフワークともいえる漢詩の研究にも精力を注いでいます。とりわけ関心を持っているのは、江戸時代後期に日本人女性によって書かれた漢詩です。この頃、江戸では中国趣味が流行していて、漢詩は教養人のたしなみでもありました。中でも、江馬細香という女流詩人の作品にとと惹かれています。女性ならではの感性や内に秘めた情熱を、敢えて硬い字面の漢詩という形で表現する、そのアンバランスさが何ともいえません。確かに、作品には恋愛感情などを想起させる漢字は一つもありませんが、作者の半生を知って読んでみると、そこに隠された色香が漂ってくるようです。こういった漢詩を読み解き、市民講座などで紹介してきました。この研究をさらに掘り下げたいというのが、これからの目標です。

漢文を、句読点や送り仮名のない白文で見ると、縦横等間隔に揃った文字列そのものの美しさに目を奪われます。さらに声に出して訓読すると、その響きにも魅了されます。視覚的にも聴覚的にも陶酔感がある、それが漢文の最大の魅力だと、塚田先生は語ります。奈良時代に中国から伝わってきた漢文を、私たちは訓読という手法を編み出し、日本語として読んできました。そう考えると、もはや漢文は日本の伝統文化なのです。将来、漢文の知識が役に立つことはないかもしれませんが、言語感覚の中に貯まった漢文の残滓が、知らず知らずのうちに日本語の言葉や文章を鍛えてくれるはず。塚田先生の漢文の授業は、記憶のどこかに確かな種をまいています。



那須 和子 副校長

「深みのあるお話」…塚田先生の「漢文」の授業を受けている生徒の言葉です。この「深み」は、先生の博学とさまざまな分野への幅広い知識から生まれるものです。

長年、本校の為にご尽力されている塚田先生は、多くの生徒から「分かりやすい漢文の授業」をなさる先生として慕われています。多くの知識を高校生に分かりやすく伝えるために指導方法の研究にも多くの時間を費やされ、休みの日には研究会を主催されて、学校外の先生方とも幅広く交流されています。この塚田先生の教科指導に対する情熱は、本校教員の目指すところ。そして何よりも、高校生を愛されています。





## 2020年東京五輪でメダルを期待される ダイヤモンド アスリート！

# 躍動する！

5月の関東インカレ<sup>※1</sup>走り高跳びで、世界陸上<sup>※2</sup>参加標準記録の2m28を突破して優勝(大会新記録)した平松祐司選手(体育専門学群1年)。2020年東京五輪のメダル獲得を期待される「ダイヤモンド アスリート」<sup>※3</sup>の1人だ。

身長184cm、股下85cm。背が高く頭が小さく、手足が長い。ジャンパー向きの体型と天性のパネに加え、「ジャンケンに負けるのも嫌」という負けず嫌いな性格。これらを武器に、走り高跳び歴わずか4年で、世界陸上出場の切符を掴んだ。

世界陸上男子走り高跳びに日本人選手が出場するのは2011年以降のこと。一緒に出場した二人、戸邊直人選手(人間総合研究科 体育学専攻 博士前期2年)と衛藤昂選手(人間総合研究科 体育学専攻 博士前期2015年3月修了)は陸上競技部の先輩だ。



平松 祐司 選手  
[陸上競技部・走り高跳び]

なぜ筑波大学がこんなに強いのか?「一人一人自分に合ったやり方を選択して練習できるからだと思う」。筑波大学に進学したのも、そんな部の方針に魅力を感じたこと。「自分のことをしっかりと考えて、必要なことだけを練習できる。でも、仲間がいて、選手間の技術の共有もできる」。今の環境がとても気に入っているという。

残念ながら8月の世界選手権では、3人とも決勝に進めなかった。平松選手の記録は2m17。「アウェーの雰囲気怖気づいてしまった」「気持ちが高ぶり過ぎて冷静さを失い、踏み切りの位置やバーとの距離が微妙にずれた」と自己分析する。しかし、リオデジャネイロ五輪を来年に控え、国際大会出場を経験を積んだ価値は大きい。平松選手も「海外のトップ選手と対峙して、『もう少し力をつければ戦える』と実感して帰ってこれたことが収穫」と前を向く。

目標はリオ五輪に出場して決勝に進み、東京五輪でメダルを取ること。世界陸上は、メダルに向かって前進した、大きな1歩だった。

- ※1 関東インカレ:第94回関東学生陸上競技対抗選手権大会(2015年5月14日~17日)
- ※2 世界陸上:第15回世界陸上競技選手権大会(2015年8月22日~30日 中国/北京)
- ※3 ダイヤモンド アスリート:日本陸連が、2020年東京五輪のメダル獲得を期待できる10代の選手11選手をダイヤモンド アスリートと認定。海外遠征や著名コーチの指導などの強化育成を行う。



左から平松選手、岡子浩二コーチ(体育系教授)、戸邊選手

## 競技成績・各種発表・コンテスト結果

### ■ 柔道部

平成27年全国日本学生柔道優勝大会  
男子団体 優勝(国立大初) 女子団体3位  
第28回ユニバーシアード競技大会  
女子52kg級 優勝 内尾真子(体専2年)  
女子63kg級 優勝 津金恵(体専2年)

### ■ 水泳部

第91回日本学生水泳選手権大会  
[女子200m背泳ぎ]優勝 斎藤ゆり子(体専1年)  
[女子高飛込]優勝 山下藍奈(体専4年)

### ■ 剣道部

第63回全日本学生剣道選手権大会  
優勝 林田匡平(体専4年) 3位 竹ノ内佑也(体専4年)

### ■ バドミントン部

第2回インドネシア国際パラバドミントン大会 2015  
[男子シングルス・ダブルス]準優勝 藤原大輔(体専4年)  
第58回 東日本学生バドミントン選手権大会  
女子団体 優勝(32年ぶり2度目)  
[女子ダブルス]優勝 加藤美幸(体専2年) 柏原みき(体専2年)  
平成27年度関東大学バドミントン秋季リーグ戦  
女子団体 優勝(春秋連覇)



# 「手塚治虫文化賞新生賞」を受賞! 「いかにして絵で物語を語るか」を追求するマンガ家

山本 美希 さん



## 筑波大生

アメリカを舞台に、見た目も性格もたくましい女性アンの奔放な生き様を描いたマンガ「Sunny Sunny Ann!」(週刊モーニングに連載)が、「手塚治虫文化賞新生賞」を受賞した山本美希さん(人間総合科学研究科 芸術専攻 博士後期3年)。同賞は、斬新な表現、画期的なテーマなど新しい才能を示した作品に与えられる賞で、サインペンを使った独特の描線と少ないセリフが「今までにない表現方法」と評価された。

作家デビューのきっかけは、芸術専門学群の卒業制作「爆弾とリボン」。中学生の女の子の性別への葛藤や恐れなどをテーマに描いた言葉のない絵本だ。この作品がデザインの卒業制作を対象とするコンペ「MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD」で「日比野克彦賞」を受賞し、編集者の目に留まって単行本化された(三才ブックス)。

小学生の頃、絵の上手な同級生に憧れて絵を描くようになったという山本さん。油絵が描きたくて芸術専門学群美術専攻洋画コースに入学したが、2年次に構成専攻ビジュアルデザイン領域に専攻を変えた。

「芸術専門学群には、1年生の間に、いろいろな分野をちょっとずつ体験するカリキュラムがあります。いろいろ体験する中で、ビジュアルデザインが面白いと思って。途中で専攻を変えられるシステムはすごくいいと思います」

ビジュアルデザイン領域に移ってからも、ポスター制作など、平面のデザインをすることが多かつ



たが、絵本やマンガの表現について研究している笹本純教授との出会いが大きな転機となった。

「先生の授業で、『言葉と絵の配置を工夫することによって、読者の頭に物語がすんなりと入るようになる』というような仕組みを教えていただきました。それまでは自分に絵本やマンガが描けるとは思っていませんでしたが、感覚的でない、論理的な部分を教えてもらったことで、自分にもできそうかな、やってみたいと思うようになりました」

昨年秋には、笹本教授のアドバイスを受けながら、3年もの年月をかけて仕上げた書き下ろし単行本「ハウアーユー?」(祥伝社)を出版。「いかにして物語を絵で語るか」を追求し、学んだこと・研究したことを作品で表現した迫力ある大作だ。巻末では、山本さん自身が、各画面をどのような意図を持って描いたかについて解説している。

現在は、「言葉のない絵本」についての博士論文執筆に追われる日々で、作家としての活動はほぼ休止中。

「これからも、マンガ作家としてステップアップしていきたいと思いますが、一方で、笹本先生から教えていただいたことや研究する中で自分なりに考えたことを、誰かにつないでいくような仕事もしたいなと考えています」



### ■ 陸上競技部

2015日本学生陸上競技個人選手権大会

[男子走高跳] 優勝 平松祐司(体専1年)

第99回日本陸上競技選手権大会

[男子走高跳] 優勝 戸邊直人(院2年) 3位 平松祐司

(上記2名、世界陸上競技選手権大会に出場)

天皇賜盃第84回日本学生陸上競技対校選手権 女子団体準優勝

[女子棒高跳] 優勝 榎本優子(院2年)

[男子ハンマー投] 優勝 保坂雄志郎(院2年)

[男子走高跳] 2位 平松祐司

### ■ ダンス部

第28回全日本高校・大学ダンスフェスティバル

文部科学大臣賞(最優秀賞) [裸密(らみつ)一写真[A sense of de-tach-ment]より]

### ■ 漕艇部

第65回東日本選手権大会

[男子シングルスカル] 優勝 越智寛太(体専4年)

### ■ つくば人間の会

鳥人間コンテスト2015 人カプロペラ機タイムトライアル部門 2位

### ■ 筑波大学吹奏楽団

第55回県吹奏楽コンクール 金賞(最優秀団体・朝日賞)

第21回東関東吹奏楽コンクール 銅賞





ペテルゴフの噴水



エカテリーナ宮殿

に乗りますが、5月から6月にかけては、アイスを食べながら、宮殿場を通って歩いて帰っていました。あの何とも言えない解放感！エルミターージュ美術館など、帝政ロシア時代の豪華な建物に囲まれている宮殿広場は、何度行っても、心を奪われる美しさです。

6月に行われる「赤い帆」という祭りでは、ここに赤い帆をイメージしたステージが設置され、コンサートが開かれます。この祭りは、高校の卒業を祝う祭りで、ロシアの童話作家、アレクサンドル・グリーンの「赤い帆」にちなんだもの。高校卒業生は、コンサートに無料招待されます。祭りのクライマックスは、盛大な打ち上げ花火の中、ネヴァ川の上流から、幸せを運んでくると信じられている赤い帆の船が下ってくるシーンです。本来、祭りの主役は高校卒業生ですが、とても幻想的できれいな祭りなので、近年では100万人もの観光客が集まります。

宮殿広場以外にも、サンクトペテルブルク周辺には、豪華な宮殿や美しい公園がたくさんあります。その1つがペテルゴフ。サンクトペテルブルクから西に約30km離れた宮殿と庭園です。庭園内には、150以上の噴水があって、水の流れにとっても癒されます。南に24kmほどのところにあるプーシキンも美しいところです。エカテリーナ宮殿や美しい池があります。

### ライバル都市・モスクワ

ロシアはとても広く、日本の45倍の面積があります。でも私は、サンクトペテルブル

ク市以外はモスクワくらいしかよく知りません。モスクワまでは700kmくらい。特急電車や車で何度が行きました。

この2つの都市の人々は、互いにライバル意識を持っているんですよ。東京と大阪によく似た関係だと思います。

一般的に、サンクトペテルブルクの人は「文学が好きで消極的。思慮深く、人生のことをいつも考えている」というイメージで、モスクワの人には「積極的で、ビジネスを成功させるために「生懸命」というイメージがあります。

### ボルシチとピロシキ

日本において、一番懐かしく思う料理は母の作るボルシチ。ボルシチの特徴は、スピョークラ(テールビート)の赤と紫の間のような色です。具たくさんスープで、スピョークラ以外の材料は各家庭でさまざま。私の家では、牛肉、ジャガイモ、キャベツなどを入れ、スメタナ(ロシア風サワークリーム)とネギをトッピングします。夏には、冷蔵庫で冷やして食べるんですよ。

母の作るピロシキも最高です。日本のピロシキは、揚げたものが多いようですが、ロシアではオーブンで焼くのが一般的。米と玉子の入ったピロシキや、りんごの入った甘いピロシキが好物です。

食べ物といえば、サンクトペテルブルクに行ったら、ネフスキー通りにある老舗、エリセーエフスキー食料品店に行ってみてください。歴史ある豪華な建物の中に、ちょっと高いけれど、とてもきれいで美味しいお菓子が並んでいます。



エカテリーナ宮殿の池



ボルシチ



ピロシキ



エリセーエフスキー食料品店のケーキ

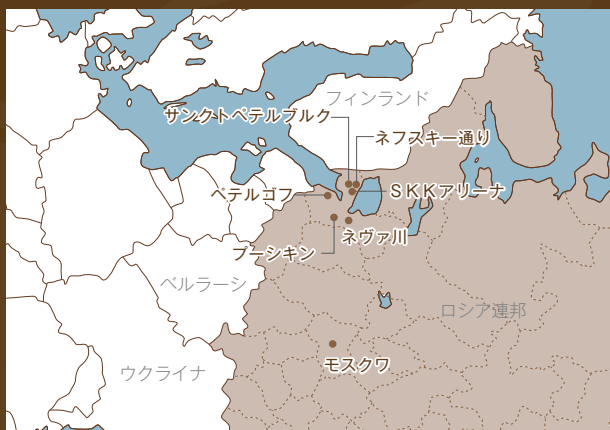




ペテルゴフの庭園

# Homeland

本学には100を超える国から約3000人の留学生が訪れています。  
このコーナーでは、本学の留学生に、出身国の自慢の場所や行事、  
食べ物などについて語っていただきます。



ロシア連邦



オリガ ジドコワ  
Olga Zhidkova さん



所属：人文社会科学研究科 文芸・言語専攻研究生  
趣味：映画・音楽

ヨーロッパの窓・サンクトペテルブルク

私の実家は、サンクトペテルブルクの中心部から南に7kmほどのところにあります。国内外の有名ミュージシャンがコンサートをする、SKKアリーナの近くです。大学は、サンクトペテルブルク国立総合大学で、東洋学部日本学科を卒業しました。

サンクトペテルブルクは、1914年までロシア帝国の首都でした。フィンランド湾に面しているため、古くからヨーロッパとの交流が盛んで、「ヨーロッパの窓」と呼ばれています。

北緯60度と、とても高緯度にあるので、5月下旬から7月中旬までは白夜。反対に、冬は日照時間がとても短く、12月下旬になると日の出が11時頃で、日の入りは17時前になります。大学に行く時も帰る時も真っ暗で、この時期はちよつと気が減りました。

一番寒いのは2月。最近では、地球温暖化の影響か、暖かくなつてきて、マイナス15度くらいの日が多いです。そのくらいではちよつとも寒いとは感じません。マイナス30度くらいの日には、「寒いな、大学に行きたくないな」と思いますけど(笑)。

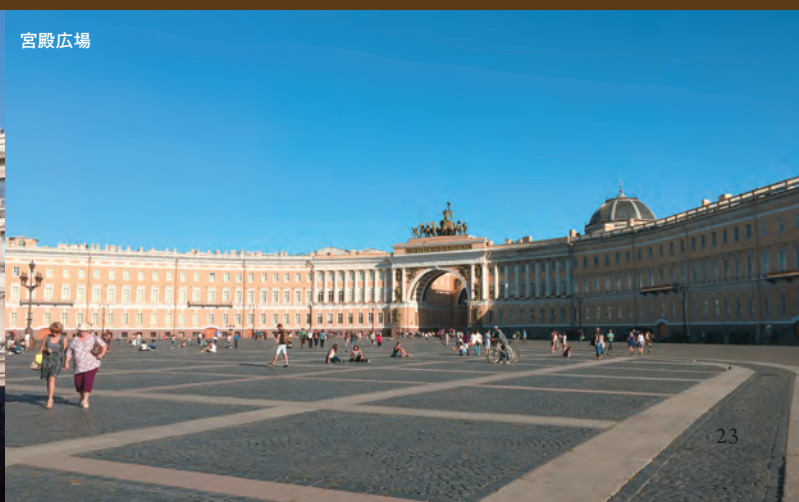
観光におすすめの時期は5月から7月です。8月に入ると、雨の日が多くなります。寒さに強ければ、雪のサンクトペテルブルクもすごくきれいですよ。雪景色が見られるのは12月から3月まで。夏とは全く違う景色が楽しめます。

宮殿広場と「赤い帆」祭り

私の大好きな場所は、宮殿広場です。普段は、大学から最寄りの地下鉄の駅までバス



写真中央：エリサーエフスキー食料品店



宮殿広場



# TOPICS

## 守備の要、熊谷紗希選手大活躍 なでしこジャパン 女子ワールドカップで銀メダル!

体育専門学群4年の熊谷紗希選手とOGである安藤梢選手が出場したサッカー女子日本代表(なでしこジャパン)が、女子ワールドカップカナダ大会で銀メダルを獲得しました。

7月6日に行われた決勝戦では、本学体育・芸術エリアの大講義室で、パブリックビューイングを実施。学生や教職員ら約150人が熱い声援を送りました。アメリカには2対5で敗れてしまいましたが、最後まで諦めずにボールを追い続けたなでしこたちに大きな拍手を送り、その健闘をねぎらいました。

熊谷選手は、守備の要として、今大会6試合フル出場の大活躍。安藤選手は、大会初日に骨折をして戦列を離脱しましたが、チームを精神的に支え、存在感を示しました。



写真：平野敬久／アフロ

▲熊谷紗希選手



▲パブリックビューイングの様子



▲安藤梢選手が表敬訪問して準優勝を報告

## TXつくば駅前に筑波大学サテライトオフィスオープン!

本学は、9月5日にオープンしたTXつくば駅前の複合商業施設「BiViつくば」2階に、「筑波大学サテライトオフィス」を開設しました。

永田恭介学長は、「BiViつくば」オープニングセレモニーで、「教育や研究の成果を広く社会に還元することは本学の使命であり、地域社会との交流を図りながら、さまざまな公開活動を積極的に行っていきます」と挨拶しました。

筑波大学サテライトオフィスでは、本学の情報発信の拠点として、大学に関する情報提供や学内の研究成果を紹介するとともに、つくば市と共用のオープンスペースを利用してさまざまなイベントを開催します。

9月5日、6日にはオープニングイベント「儒教美術 はじめの一步」を開催。芸術系で実施している湯島聖堂大成殿孔子像の彩色復元像を展示しました。孔子像を題材にしたスケッチや粘土細工のワークショップも実施し、子どもから大人までたくさんの人が参加しました。





## 永瀬貴規選手が 柔道世界選手権で金メダル!

カザフスタンで行われた柔道世界選手権で、永瀬貴規選手(体育専門学群4年)が男子81kg級で金メダルを獲得しました。

弱点と言われた同階級での優勝は日本勢初の快挙。永瀬選手は2度目の挑戦で世界の頂点に立ちました。



昨年の大会は覇者チリキシビリ選手(ジョージア)に敗れて5位。「相手のペースのまま何もできずに終わってしまった」と悔やんでいた永瀬選手は、準決勝で対戦した同選手に対し、終始試合を支配しての優勢勝ち。決勝でも攻めの姿勢を貫き、一昨年の覇者ピエトリ選手(フランス)を抑え込みで破りました。

また30日に行われた団体戦でも、厳しい戦いを制し、男子団体金メダル獲得に貢献しました。





## 本物の経営者とともに 企業経営を疑似体験

大学院共通科目の中に、JAPIC（日本プロジェクト産業協議会）の協力により実施する科目群があります。これらは、企業のトップとのディスカッションを通じて、グローバル時代の産業界で求められる人材や、企業経営について深く考察するものです。その中のひとつ、大学院アドバンス・ディスカッションコース「グローバル時代の企業経営について」では、全学から15名ほどが履修し、日鉄住金鋼板株式会社（NISC）の武田厚取締役相談役ら



の講義および工場見学により、事業構造改革の変遷やブランド構築のケーススタディを学び、さらに経営陣とともに、現実に直面している経営課題に対する解決策について討論・発表しました。

NISCは屋根や壁などに用いるメッキ銅板を中心とする建材の製造・加工を行う企業で、さまざまな事業の統廃合を経て、業界の中核を成すに至っています。授業はまず、企業の沿革を伺い、主力製品を生み出す工場の見学から始まりました。企業の生々しい現実や困難に対処する経営判断、ダイナミックな製造現場を目の当たりにし、学生たちのテンションも一気に上がります。

その後の講義で、企業の再編や事業展開の具体的事例について学び、最終回の授業では、2グループに分かれて、海外進出の戦略や、事業の拡大についてディスカッションが行われました。経営者の立



場で考えたときの最適解は何か、企業幹部も加わって徹底的に議論します。導かれた結論には稚拙な部分もありますが、学生ならではの新しい視点もあり、ともに議論した経営陣にとっても発見の多い提案が発表されました。最後に、武田取締役相談役から講評と全体の総括、そして未来の経営者へのエールをいただき、全4回の集中講義は終了しました。目指す業種は違っても、企業経営の醍醐味と厳しさを実感する貴重な体験となりました。

## 「夏休み ちょこっと理科クラブ」開催

小中学校の夏休み開始間もない7月26日、筑波大学東京キャンパス文京校舎にて、小中学生向けの科学イベントを開催しました。名づけて「夏休み ちょこっと理科クラブ」。本学では毎年4月の科学技術週間に、科学の面白さと大学の魅力を体感できる小中学生向けイベント「キッズ・ユニバーシティ」を筑波キャンパスで開催しています。今回の催しは、東京キャンパスでの初の科学イベントとなりました。

当日は、筑波大学の教員による、植物



▲広いロビーが特別理科教室に

の果実の実り方と波の伝わり方に関する実験や観察、隣接する教育の森での昆虫観察会、理科教育専攻の学生の指導による工作教室の他、夏休み自由研究の相談会を実施しました。猛暑にもかかわらず、100枚用意した「学生証」（有効期限は筑波大学に入学するまで）が午前中でほぼなくなるほど盛況で、いつもは社会人学生が憩うロビーが、その日だけは小学生の理科教室のようににぎわいました。



▲昆虫観察の様子。20種類以上の虫を確認しました



▲「果物はどうやってできる？」では輪切りにして観察したトマトやリンゴをおいしく食べました



## 高細精医療 イノベーション棟完成！

本学の春日地区に「高細精医療イノベーション棟」が竣工し、8月19日に落成記念式典が開催されました。

同棟は、筑波大学と慶應義塾大学が共同提案した文部科学省の「地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業」(平成24年度)により整備されました。産学官が一つ屋根の下に集い、地域資源等を柔軟に活用しつつ、革新的課題の研究開発に異分野融合体制で取り組む「場」として、持続的なイノベーションや産業・雇用の創出を図ります。また、4階では、文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」の「食と健康の達人」拠点(拠点リーダ北海道大学)の筑波大学サテ



ライトとしても活動します。

落成記念式典には学内外の関係者約100人が出席し、永田恭介学長の挨拶の後、ご来賓の方々から祝辞を頂きました。続いて金保安則高細精医療イノベーション研究コア長および磯田博子COIストリーム筑波大学サテライト長からの挨拶があり、エントランスホールにてテープカットが行なわれました。引き続き、佐藤孝明(株)島津製作所フェローの記念講演が行なわれ、終了後には施設見学も行われました。



## 睡眠医科学研究棟完成！

国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIS)の新しい研究拠点「睡眠医科学研究棟 IIS Building」がオープンし、9月29日、100名を超える内外関係者が出席し、完成記念式典が開催されました。

同機構は、睡眠覚醒の仕組み解明を目指し、基礎から臨床までを網羅する世界トップレベルの研究拠点です。2012年度に文部科学省の「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」として採択され設置されました。このたび念願の研究棟が完成し、傘下の研究室が文字通り統合されました。6階建てのビルは、実験室・研究室は研究者にとって使い勝手の良い斬新な設計がなされ、ロビーには本学芸術系教員の創意に富んだアートも配置されるなど、柳沢正史機構長のこだわりが随所に発揮されています。

記念式典のレセプションでは、筑波大学医学オーケストラの演奏があり、柳沢機構長もフルート演奏を披露しました。



▲睡眠医科学研究棟 IIS Building







# TSUKUBA GLOBAL SCIENCE WEEK 2015



9月28日から30日の3日間、つくば国際会議場において、Tsukuba Global Science Week 2015 (TGSW 2015)が開催されました。6回目となる今回は、世界25か国、90機関から200名近い発表者と、1,200名を越す来場者を迎え、全学からエントリーされた30を越えるセッションが行われました。

TGSW 2015は、本学OBであり、わが国を代表する幹細胞の研究者としてグローバルに活躍されている鈴木淳史教授（九州大学生体防御医学研究所教授 平成26年度日本学術振興会賞受賞）の基調講演で幕を開けました。細胞の運命決定機構の解明を通して、将来的に動物実験に頼らず、幹細胞を使用して薬剤効果を測る可能性について語られ、300名収容の会場に立ち見ができるほどの盛況ぶりでした。



メインセッションのひとつは、本学に新設された「つくば国際スポーツ科学アカデミー(TIAS)」を中心に企画実施された「オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの参画」です。全3部からなる本セッションでは、第1部でニック・フラー氏（国際パラリンピック委員会教育プログラム責任者、2012年ロンドン大会教育プログラム責任者）より、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント(OPM)」のミッションや沿革、2012年ロンドン大会での推進事例が紹介されました。続く第2部では、ブラジルから招いた高校生2名、特別支援学校の在校生を含む日本の高校生5名から、2016年リオデジャネイロ大会、2020年東京大会に向け、「何ができるか」、「何をしたいか」について発表がありました。それぞれの立場から、共生、ボランティア、物心両面での社会のバリアフリー化、SNSを活用したトランスポーターなつながりの可能性等について、若者らしい新鮮さ・真摯さにあふれた主張がなされました。第3部のパネルディスカッションでは、フラー氏に加え、特別支援教育の専門家であるラミチャーネ・カマル本学准教授や、オリンピックメダリスト（女子柔道）の山口香本学准教授らが、人生におけるスポーツの意義、スポーツ界の性格差問題、嘉納治五郎の現代的意義などをテーマに、それぞれの経験と深い思索に基づいた討論を行いました。

また、TGSW初の試みとして、つくばの地に結集した研究者コミュニティによる地球規模課題の克服への決意ならびに多様性や平等の尊重、人と自然との共生といったOPMの理念とも通底する価値観を共有する次世代の人材育成に対する誓いを、『TSUKUBA宣言2015』として公表しました。

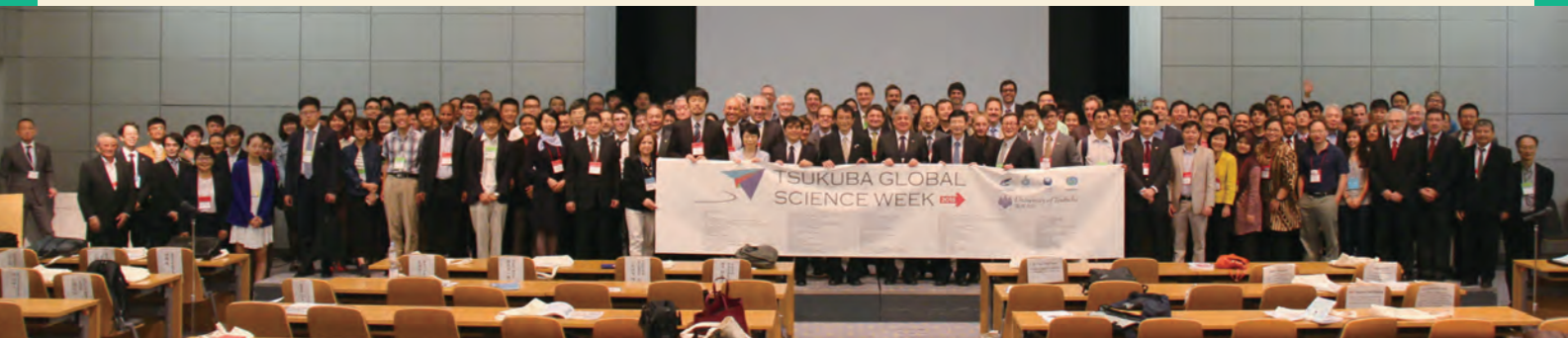
TGSW 2016は、2016年9月17日～19日の3日間、「産官学連携とイノベーション」をメインテーマに開催予定です。



▲「TSUKUBA宣言2015」



▲鈴木淳史教授



▲オープニング・セッションの記念撮影





# 受賞



## Award and Prizes

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導教員
日本造園学会賞	武正憲助教(芸術系)	――
第33回日本脳腫瘍病理学会学会賞	石川栄一講師(医学医療系)	――
第111回日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞	太刀川弘和准教授 (医学医療系 保健管理センター)	――
茶道文化学術奨励賞	石塚修教授(人文社会系)	――
日本小児神経外科学会川淵賞	鶴淵隆夫非常勤講師(医学医療系)	――
日本小児神経外科学会優秀ポスター賞	杉浦嘉樹医員	――
平成27年度筑波大学若手教員特別奨励賞	北将樹准教授(数理物質系)	――
日本数式処理学会2015年度奨励賞	讃岐勝研究員(医学医療系)	――
2015年度日本地質学会小藤文次郎賞	氏家恒太郎准教授(生命環境系)	――
2015年度サイボルト賞	本澤巳代子教授(人文社会系)	――
New Investigator Award Poster Competition 1st place	内藤景特任助教(体育系 体育センター)	――
Achievement Award in the Field of Information Sharing Network Systems	西川博昭教授(システム情報系)	――
日本体育学会第66回大会 若手研究奨励賞	関子浩二教授(体育系)	――
	荊山靖特任助教(体育系)	――
独立行政法人 日本学術振興会 平成26年度特別研究員等審査会専門委員(書面担当) および国際事業委員会書面審査員の表彰	鬼沢武久教授(システム情報系)	――
	和田洋教授(生命環境系)	――
新規素材探索研究会 第14回セミナー 新規素材探索研究会最優秀ポスター賞	相原幸音 (生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 博士前期1年)	繁森英幸教授(生命環境系)
エネルギー・資源学会第3回学生発表賞	鈴木淳史 (平成26年度 システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士前期修了)	岡島敬一准教授 (システム情報系)
2015年度全国英語教育学会・学会賞(学術奨励賞)	濱田彰 (人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻 博士後期3年)	卯城祐司教授(人文社会系)
The 16th ISHPES Congress - Routledge Junior Scholar Presentation Award	大林太朗 (人間総合科学研究科 体育科学専攻 博士後期3年)	真田久体育専門学群長(体育系)
日本体育学会第66回大会 若手研究者優秀賞		
第25回体力・栄養・免疫学会大会 三島賞(体力・ 栄養・免疫学会学術賞)	平井康仁 (平成26年度 人間総合科学研究科 生命システム医学専攻 一貫制博士修了)	松崎一葉教授(医学医療系)
Young Scientist Award, 3rd Asian School- Conference on Physics and Technology of Nanostructured Materials, Vladivostok, Russia	具志俊希 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻 博士前期2年)	末益崇教授(数理物質系) 都甲薫助教(数理物質系)
日本体育学会第66回大会 若手研究奨励賞	関子あまね (人間総合科学研究科 体育学専攻 博士前期1年)	関子浩二教授(体育系)
TIA パワーエレクトロニクスサマースクール奨励賞	飯嶋竜司 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻 博士前期2年)	只野博教授(数理物質系)
国際会議 VLDB2015/BPOE6 Best Paper Award	丸茂孝一 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士後期1年)	山際伸一准教授 (システム情報系)

※所属・職名・学年は受賞時



# 筑波大学校友会

TAA: University of Tsukuba Alumni Association

本号から、「筑波大学校友会」の頁がスタートします。今回は、現在の校友会の状況と、今年4月から始まった、「TAA（筑波大学校友会）カード」について、ご説明します。

## 筑波大学校友会の現状

「筑波大学校友会」は、本学と卒業生・修了生、在学生、元教職員、教職員、課外活動団体及び各同窓会といった本学関係者との連携強化（交流促進、相互支援、最新情報共有化など）を目的としたネットワークの構築を進める一環として、平成21年度より進められてきた「筑波大学ネットワーク（仮称）」が、平成23年11月に「筑波大学校友会」と定められたものです。

現在は、第1ステージとして、平成24年4月から校友会サイト及び同SNSを運用しているところですが、あくまでバーチャルなネットワークという位置づけとなっています。

今後、第2ステージとして、既存の同窓会組織等との連携を踏まえた校友会組織の整備を進め、卒業生をはじめとした関係者向けサービスの拡充、ネットワークの拡大と世代を超えた交流の活性化を図り、帰属意識の一層の向上に向けて、現在、本学関係者と卒業生からなる委員会が検討を進めている状況です。



イメージキャラクター「くつつ君」

## TAA（筑波大学校友会）カード

この度、本学では、三井住友カード株式会社と提携契約を締結し、大学関係者（筑波大学および筑波大学大学院の在学生、卒業生・修了生、教職員）を加入対象とするクレジット機能付き大学カード事業を開始しました。

このTAAカードは、入会費が無料となっており、更に、在学生の皆様は、在学中の年会費も無料をご利用いただけます。

本カードを皆様にご利用になると、カード会社の収益の一部が本学基金「TSUKUBA FUTURESHP」に寄附され、在学生への経済支援や学園祭等の課外活動支援に充てられる仕組みとなっています。

また、「五三の桐」マークが入った西川潔本学名誉教授デザインのカードを持つことによって、在学生・卒業生および教職員等大学関係者の一体感の醸成や同窓会をはじめとする校友会事業の活性化を目指しております。

本カードをお持ちの方は、カードを提示するだけで、つくば市内の飲食店をはじめ、200を超える商業施設で様々なサービスが受けられます。今後も皆様の要望を取り入れながら、協力店舗を増やしていく予定です。



- ✓ 入会費無料（在学生は年会費も無料）
- ✓ 安心のVISAブランド
- ✓ 電子マネー「iD」申込可能
- ✓ 最高2,500万円の海外・国内旅行傷害保険
- ✓ 年間100万円までのお買物安心保険
- ✓ 約200の協力店舗による様々な特典あり

### ■TAAカードお申込み■

オンライン入会の受付を開始いたしました。 <https://alumni.tsukuba.ac.jp/cashcard.html>

### ■校友会SNSメンバー登録■

右ウェブページをご参照の上、ご申請ください。 <https://alumni.tsukuba.ac.jp/site/user.html>

### ■お問い合わせ■

連携・渉外室 ☎029-853-2030 Email: [renkei@un.tsukuba.ac.jp](mailto:renkei@un.tsukuba.ac.jp)



# 茗溪会

MEIKEIKAI

筑波大学同窓会を母体とする一般社団法人

## 平成27年度茗溪会 学生活動助成金贈呈式・交付式

茗溪会の筑波大学支援事業の一つである学生活動支援助成金が、筑波大学の学生の団体に贈られました。7月23日、筑波大学学長応接室において江田昌佑茗溪会理事長から永田恭介学長への目録贈呈式が行われ、引き続き、総合交流会館において江田理事長から各団体の代表者(16団体)への交付式が行われました。今年度の助成金総額は300万円で、助成金が交付された団体は、次のとおり。

オリエンテーリング部／ライフセービング部／応援部 WINS／管弦楽団／Realjam／つくばろぼっとサークル／学び場さくら塾／HSCat／筑波学生文芸賞運営委員会／平成27年度筑波大学学園祭実行委員会／ふるさとつくばゆいまつり実行委員会／筑波大学附属病院前ガーデンプロジェクト／筑波大学大学院弓道コーチング論研究室／みんなで作る筑波大学産昆虫目録実行委員会／筑波大学ビッグバンドプロジェクト／食と酒 東北祭り実行委員会



## 嘉の雅 茗溪館オープン

歴史ある茗溪会館がウェディングステージ嘉の雅(かのび)茗溪館に生まれ変わり、9月1日、2日に地元や筑波大学の関係者を招待してオープニングレセプションが行われました。ブライダルだけでなく、各種パーティ等にもご利用いただけます。また、カフェ&レストラン cafe HARU terrace も同時にオープンしました。



# 紫峰会

SHIHOKAI

筑波大学父母会組織の学生後援会

## OB会のサポート事業を展開

紫峰会ではサークルサポート事業として、課外活動団体のOBOG会を対象にOB会サポート事業を展開しています。それぞれの団体のOB会は現役学生にとって最も頼りになる存在であり、その支援は団体の活動に大きな影響を与えています。OB会の運営を円滑にし、活性化させることで、それがそのまま現役への支援の増加に繋がる、これがOB会サポートの狙いです。

紫峰会ではこれまでの業務で培った知識や経験、充実した学生支援用機材を駆使し、さまざまなサービスをOB会サポートとして提供しています。運営相談では、OB会の立ち上げや名簿管理などさまざまな相談に応じしています。

また、環境支援として、名簿や部誌のための印刷やコピーをセルフサービスにて提供しています。他にも、ミーティングや作業をするための会議室の提供も行っています。

これらのサービス以外にも事務代行として、さまざまなサービスを提供しています。住所データをラベルにプリントする宛名ラベル出力サービスや郵送料が割安となる発送代行サービス、OB会費を銀行口座から自動引き落としする収納代行サービスなど、一般的に個人での利用が難しいサービスを格安で提供しています。



写真：医学スキ一部のOB会向け印刷作業



写真：医学ロボット部のOB会送付用製本作業

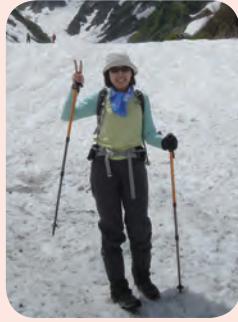


# 01

総務部総務課

山田 麻紀 さん

ネコ派かイヌ派かと問われれば、私はエゾリス派と答えます。長いふさふさのしっぽがトレードマーク。夏と冬では毛の色もふさふさ具合も違いまるで別リスですが、冬眠しないので一年中会えます。以前住んだ札幌市内の緑地で出会い、そのひょうきんで愛らしい仕草に魅せられました。毎日のように見つめ合ううち個性が分かり、名付けたのは7匹ほど。撮りためた写真は1年で700枚をこえ、エゾリス狂と呼ばれるほど(笑)。野生



では寿命は約2~6年。あの時出会った子達ももういないけれど、連れ立っていた子リスが命を繋いでいることでしょう。また彼らに会いに行きたいですね。

NEXT

今回は、医学医療系講師の瀬尾恵美子さんです。「採用当時、一緒に仕事をさせていただきました。先生の笑顔と気さくな人柄に何度助けられたかわかりません」

# 02

附属病院講師(附属病院国際連携推進室)

ザボロノク・アレクサンドル さん

私はベラルーシの出身で7年間筑波で生活している脳外科医です。アウトドア派なので旅行をしたり写真撮影、音楽鑑賞などいつも家族と出かけて楽しんでいます。これまで京都、金沢、日光、那須などいろいろな場所を訪れました。今年は元日に富士河口湖に行き美しい富士山の写真を撮ることができました。その後三重県にいる友人を訪ねて伊勢神宮に初詣をした事は楽しい思い出です。これからも家族と一緒に日本の様々な場所を訪ねて家族ぐるみでいろいろな人とお付き合いできたらよいと思っています。ご一緒できる方がいらっしゃったら声をかけてください。



NEXT

今回は、附属病院国際連携推進室の深谷めぐみさんです。「国際交流を楽しんで、海外にもたくさん友達がいる深谷さんは海外旅行も大好きだそうです」



## ツクバでツナがるリレ→エッセイ



# 05

附属病院リハビリテーション部

鈴木 康裕 さん

私の趣味は、ささやかですが、小さな水槽で飼っているどじょうとめだかが元気に泳いでいる姿を見ることです。毎日帰宅して彼らが元気であると、とても安心し、朝に餌をあげると争って食べている姿に勇気をもらえます。また、最近水槽の上に植物を植えたところ、こちらら青々と育ち、日々元気がもらえる気がして



います。私は昨年40歳を過ぎて肉体が衰えていくことも感じていますが、彼らの小さな命をこれからも見守るため、老け込んではいけないと気持ちを新たにしております。万歳41歳。

NEXT

今回は、芸術系助教の村上史明さんです。「昨年からお仕事を一緒にさせていただきました。世界を開くような新しいモノを作る作業をぜひこれからも連携させてください!」

# 06

東京キャンパス事務部学校支援課

込谷 知草 さん

お休みの日は、子どもとプールへ泳ぎにいきます。5歳になった息子は水泳大好き! 生後5カ月からスイミングスクールに通い、水泳歴は4年です。昨冬体調を崩し半年間泳げなかったのですが、100m個人メドレーを泳ぎます。そういうとすぐ泳げるイメージですが、飛び込むとバチャーンとお腹をうち、ターンをすると方向性を見失い、しばらく浮かんでこず、バタフライはウミガメがもがいているように見えます。子どもの練習に付き合い、しばらくは土日のプール通いが続きそうです。



NEXT

今回は、病院総務部医事課の高野七重さんです。「公私ともにお世話になっている先輩で、その明るさと優しさいつも元気をもらっています」



# 03

東京キャンパス事務部学校支援課附属中学校

安田 伊織 さん



私の住んでいる宿舎のすぐ前の公園に池があります。その池にカルガモの雛が毎年6月上旬に公園デビューしています。公園の周りはアスファルトで固められ、人も車もたくさん行き交っている中で、今年の母ガモは、近所のビルの屋上で卵を孵し、雛を連れてビルの階段を降り、道路を渡り、池まで連れてきたそうです。雛にもそれぞれ個性があり、時々後ろ向きに泳ぐ雛や、とても食いしん坊で他の雛が疲れて昼寝をしている最中でも、一人で熱心にエサ探しをしている雛もいます。今はすっかり皆、大きくなり、大人との区別もつきませんが、公園でのウォーキングがてら、雛の成長を見るのを楽しみにしています。

NEXT

今回は、教育推進部の関瑞穂さんです。「大学院課の頃、関さんを上司として大変お世話になりました。難しい仕事をいくつも同時にこなすスーパー上司で人望も厚く、とても尊敬しています」

# 04

芸術系准教授

李 昇姫 さん



大学の紅葉の並木鑑賞も26年目です。お昼や夜に筋トレをしてストレスを吹っ飛ばしています。体脂肪20%台維持が目標です。子どものときから手芸が好きで娘の小さくなった可愛い洋服を手縫いでカバンにリフォームしています。家には2歳のトイプードルのオレオちゃんと年下のデニー君、手乗りインコのドコちゃんとカナちゃん、娘が京都の川で見つけてきたカエルのエックス君が同居中です。一人娘がそろそろ思春期を迎えることで、幼児の安全デバイス「おにぎりマシーン」からアップグレードして思春期前期の子供用ロボペットの開発中です。お勤めのレストランは、和食「一の矢」と日本一美味しいイタリア料理の「ヴィラ・デ・エステ (VILLA D'EST)」です。

NEXT

今回は、財務部契約課の海老坪正和さんです。「昨年、デンマークの出張でお会いしましたが、子どもの保育園も一緒だったご縁もあり、とても優しいお父さんの姿が印象的な方です。今後ともよろしく願っています」



5000人を越す教職員がいる本学。その中で生まれた人と人とのつながりを、8本のバトンが渡っていきます。



# 07

医学医療系講師

小川 良子 さん



休みの日は小学校1年生の長男、4歳の長女、1歳なりたての双子と過ごしています。走り回る長男、きままな長女、はいはいで部屋中動きまわる双子に囲まれ…休日は平日より多忙な日々です(笑)。そんな我が家の散歩休憩スポットは、つくば市役所のそばの、かりんとうまんじゅう・お団子のお店「たつ吉」さん。最初は2、3本頼んでお店の前のベンチで食べて一休みだったのですが、徐々に食べる量が増えていき…今では長男がしょうゆ団子を8本、長女が4本、店長さんも驚きの勢いで食べるのですっかり常連です。双子も食べるようになったらいったい何本注文すればよいやら…思いやられる今日この頃です。

NEXT

今回は、システム情報系准教授の石川竜一郎さんです。「長男が保育園0歳からずっと一緒でお世話になってます。子供のことをいつも明らかにされているイクメンです」

# 08

企画室

橋本 宏之 さん



自然や歴史が好きでよく旅行に出かけます。ここ5年で行ったところを、思いつくままに書き出します。帯広、トマム、富良野、美瑛、蔵王、山形、平泉、那須、奥日光、尾瀬、越後湯沢、いわき、大子、勝浦、草津、軽井沢、伊香保、四万、箱根、伊豆、戸隠、上高地、京都、奈良、明日香、貴志、松山、内子など…。長時間のクルマも電車も苦になりませんが、昔から飛行機は慣れません。昨年に生まれた娘は、気に入っている旅先の中から「明日香」と名付けました。夢見るは、家族でいつかレンタサイクルでの明日香村めぐり。

NEXT

今回は、体芸エリア支援室の埜田公子さんです。「同期のみなんでよく出掛けました。子育てのアドバイス感謝です！」

※所属・職名は2015年10月現在



## 新聞記事一覧

	記事内容	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	本学発ベンチャー、サイバーダインは、羽田空港の旅客ターミナルに清掃ロボットや搬送ロボット、装着型ロボットを導入すると発表	サイバーダイン 山海嘉之教授(システム情報系 サイバニクス研究センター長)	読売・産経・日経産業・ フジサンケイビジネスアイ(7.3) 朝日・茨城(7.8)
2	つくば市で来年開催のサミットの科学技術相会合を開催。メディアセンターは本学と「つくばカピオ」に分散設置の予定	永田恭介学長 山海嘉之教授(システム情報系 サイバニクス研究センター長)	朝日・毎日・読売・日本経済・産経・ 茨城・常陽(7.4) 日本経済(7.14) 日経産業(7.15)
3	本学でサッカー女子ワールドカップ決勝戦のパブリックビューイングを開催。準優勝したサッカー女子日本代表の安藤梢選手が永田恭介学長を表敬訪問。	安藤梢(OG) 熊谷紗希(体専4年 リヨン) 真田久体育専門学群長(体育系) 西嶋尚彦教授(体育系)	朝日・毎日・常陽(7.7, 16) 産経・茨城(7.7) 日本経済・東京・日刊工業・ サンケイスポーツ(7.16) 読売(7.17)
4	文京キャンパスで「朝永振一郎記念『科学の芽』賞」の10周年記念イベントを開催	鷲見辰美教諭(附属小学校) 澤村京一准教授(生命環境系)	毎日小学生新聞(7.7)
5	蹴球部主将早川史哉選手のサッカーJ1 アルビレックス新潟入団が決定	早川史哉(体専4年) 小井土正亮助教(体育系 蹴球部監督)	朝日・毎日・東京(7.9) 常陽(7.10) 読売(7.14)
6	大河内信弘教授や大日本印刷の研究チームは、肝臓の立体模型を3Dプリンターで作製する手法を開発したと発表	大河内信弘教授(医学医療系) 大城幸雄講師(医学医療系)	産経・日刊工業(7.9) 日経産業・毎日(7.10) 読売(7.22)
7	国立大学再編の波について「大学が萎縮する」と金子元久特命教授	金子元久特命教授(大学研究センター)	読売(7.12)
8	第26回国際生物学オリンピックで、末岡陽太郎さんが金メダルを獲得	末岡陽太郎(附属駒場高3年)	朝日・毎日・読売(7.20)
9	附属病院で第3回となる企画「アーティスト・イン・ホスピタル」が展示されている	飯田瑠璃子(芸専2年)	読売(7.24) 毎日(7.26)
10	本学は「藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター」を開設	渡邊信特命教授 (藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター長)	毎日(7.29)
11	本学は海外留学支援事業の一環で「海外武者修行支援プログラム」を開始。5月の学内公募で「Ask Us Desk」他9組53人が採択された	「Ask Us Desk」	常陽(7.31)
12	独立行政法人の情報処理推進機構の「未踏事業」が、IT分野の優秀な人材を生み出している。	神武里奈(シス情 知機 博士前期1年)	日本経済(7.31) 夕
13	「国際情報オリンピック」で、増田隆宏さんが金メダルを獲得	増田隆宏(附属駒場高2年)	東京(8.1) 毎日(8.1) 夕
14	大学が世界遺産について学ぶ学科やコースを開設する動きが広がる。本学は2004年、大学院に、人間総合科学 世界遺産・世界文化遺産学専攻を設立	世界遺産・世界文化遺産学専攻 稲葉信子教授(芸術系)	日本経済(8.3)
15	本学は「つくば連携強化事業」として、市内の公的機関と12分野の共同研究を開始する		日本経済(8.7)
16	第55回県吹奏楽コンクールで、筑波大学吹奏楽団が最優秀団体に贈られる朝日賞を受賞	尾花健斗(人文3年)	朝日(8.10)
17	2014年にスタートした留学支援制度「トビタテ!留学」。3期で本学から29人が採用された		茨城(8.12)
18	国際地理オリンピックで、菊池裕太さんと佐藤剛さんが銀メダルを受賞	菊池裕太(附属駒場高3年) 佐藤剛(附属高2年)	朝日(8.19)
19	本学は、高細精医療イノベーション棟の完成式典を開催	永田恭介学長 金保安則教授(医学医療系 高細精医療イノベーション研究コア長)	常陽(8.20)
20	湯島聖堂に開学の起源を持つ本学で、孔子袞冕像が制作されている	守屋正彦教授(芸術系) 柴田良貴教授(芸術系) 藤田志朗教授(芸術系) 程塚敏明准教授(芸術系)	茨城(8.24)
21	小林航助教、守友浩教授らが安価なコイル型電池セルを開発	小林航助教(数理工学系 学際物質科学研究センター) 守友浩教授(数理工学系 学際物質科学研究センター)	日刊工業(8.24)
22	▽TX開業10年:9月5日に5階建て商業施設がオープン。筑波大のオフィスが入る	渡和由准教授(芸術系)	朝日(8.25)
23	アスタナ(カザフスタン)で開催される柔道世界選手権男子81kg級で永瀬貴規選手が金メダルを獲得。同階級での日本勢優勝は初。男子団体戦でも勝利し、日本の金メダルに貢献	永瀬貴規(体専4年)	朝日(8.28, 31)(9.1) 毎日(8.28, 29) 日本経済(8.28, 31) 東京・産経・茨城(8.28) 読売(8.31)
24	文部科学省「三つの重点支援枠」の「世界で卓越した教育研究」を本学含む16大学が選択		日刊工業(8.31) 茨城(9.11)
25	世界陸上 男子走り高跳びで、戸邊直人選手、衛藤昂選手、平松祐二選手決勝進出ならず。平松選手は、陸連が2020年東京五輪のメダルを期待して選んだダイヤモンドアスリートの1人	戸邊直人(人間総合 体育 博士前期2年) 衛藤昂(OB AGF) 平松祐司(体専1年)	毎日(7.24) 東京(7.25) 朝日・毎日・産経・東京・茨城(8.29) 東京(8.29) 夕
26	附属病院で患者らの家族の会による夏祭りを開催	附属病院	常陽(8.31)
27	第8回ラグビーワールドカップ日本代表メンバーに福岡堅樹選手	福岡堅樹(情科4年)	朝日・毎日・読売・日本経済・東京・ 茨城(9.1)
28	江面浩教授らはトマトを高糖度にする遺伝子変異を特定	江面浩教授(生命環境系 遺伝子実験センター) 有泉亨准教授(生命環境系 遺伝子実験センター) 増田順一郎研究員(生命環境系)	日経産業(9.1) 常陽(9.11)
29	第26回つくば賞に澁谷彰教授	澁谷彰教授(医学医療系) 江崎玲於奈元学長 白川英樹名誉教授	朝日・毎日・読売・産経・茨城・ 常陽(9.4) 日刊工業(9.8)
30	つくば駅前の商業施設「BiViつくば」に本学のサテライトオフィスがオープン	永田恭介学長 稲垣敏之理事・副学長	読売・産経・日本経済・東京・常陽・ 茨城(9.5) 朝日・毎日(9.6)

## テレビ放送一覧

	内容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	東京から358kmのところには位置する孤島「青ヶ島」を紹介する番組で、上條隆志教授が島の植物の特徴について解説	上條隆志教授(生命環境系)	日本テレビ 所さんの目がテン!(7.19)
2	「口」に関するコーナーで「粘膜バリアーを強化して免疫力アップ」について武川寛樹教授が解説	武川寛樹教授(医学医療系)	テレビ東京系 主治医が見つかる診療所(8.17)

※所属・職名・学年は2015年10月現在



# Event calendar

## 10 october

- 1日(木) 秋学期授業開始  
開学記念日  
附属図書館特別展  
「数学の叡智—その探求と発展—」  
(9/28~11/8)  
フランスフェア(~4日)
- 2日(金) フランス カフェ
- 5日(月) 第2次選考「AC/国際科学オリンピック/  
国際バカロレア」(~19日)
- 6日(火) Cosmos Café
- 7日(水) 篤志解剖体慰霊式  
Cosmos Chat / GC Chat Café
- 13日(火) Cosmos Café
- 14日(水) Cosmos Chat
- 15日(木) MANA-RSC symposium :  
Materials for Energy Generation  
and Storage  
(~16日)(物質・材料研究機構)
- 18日(日) City Chat Café
- 19日(月) エンパワーメント情報学プログラム  
10月期一般入試学力検査期間  
(~11/8)
- 20日(火) 秋の海外留学フェア / Cosmos Café
- 21日(水) Cosmos Chat
- 23日(金) 合格発表  
「AC/国際科学オリンピック/  
国際バカロレア」
- 25日(日) 「よみがえる孔子像と学問の礎」  
(東京キャンパス文京校舎~11/3)
- 27日(火) Cosmos Café
- 28日(水) Cosmos Chat

## 11 november

- 1日(日) City Chat Café
- 4日(水) Cosmos Chat
- 6日(金) 学園祭(~8日)
- 7日(土) ホームカミングデー
- 10日(火) Cosmos Café
- 11日(水) 実験動物慰霊式 / Cosmos Chat
- 13日(金) エンパワースタジオ公開シンポジウム
- 14日(土) 秋季スポーツ・デー(~15日)
- 16日(月) エンパワーメント情報学プログラム  
10月期一般入試合格発表  
12月期履修者特別選抜入学願書受付  
(~11/18)
- 17日(火) Cosmos Café
- 18日(水) T-ACT公開シンポジウム  
Cosmos Chat
- 24日(火) Cosmos Café
- 25日(水) エンパワーメント情報学プログラム  
第1回外部評価  
Cosmos Chat
- 26日(木) 入学試験  
「推薦/帰国生徒(体育・芸術)」  
(~27日)
- 28日(土) ACM-ICPC アジアつくば大会 2015  
(つくばカピオ~29日)

## 12 december

- 1日(火) Cosmos Café
- 2日(水) 日本学生支援機構奨学金返還説明会  
(大学会館講堂)  
Cosmos Chat
- 7日(月) エンパワーメント情報学プログラム  
12月期履修者特別選抜学力検査
- 8日(火) Cosmos Café
- 9日(水) 合格発表「推薦/帰国生徒(体育・芸術)」  
Cosmos Chat
- 18日(金) エンパワーメント情報学プログラム  
12月期履修者特別選抜合格発表
- 20日(日) City Chat Café
- 22日(火) 秋ABモジュール期末試験(~28日)
- 29日(火) 冬季休業(~1/6)

※表紙をリニューアル:「TSUKUBA COMMUNICATIONS」の愛称を「TSUKU COMM(ツクコム)」とし、  
今まで以上に愛着を持っていただけるよう広報誌作成に取り組んでまいります。





 *University of Tsukuba*

TSUKUBA COMMUNICATIONS (筑波大学広報誌) VOL. 29

平成27年10月発行 編集・発行：筑波大学広報室

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話：029-853-2063 E-mail：kohositu@un.tsukuba.ac.jp

URL：http://www.tsukuba.ac.jp/

© 2015 筑波大学 (本紙記事の無断転載を禁じます)